

第3章 事業実施想定区域及びその周囲の概況

第1節 自然的状況

1. 大気環境の状況

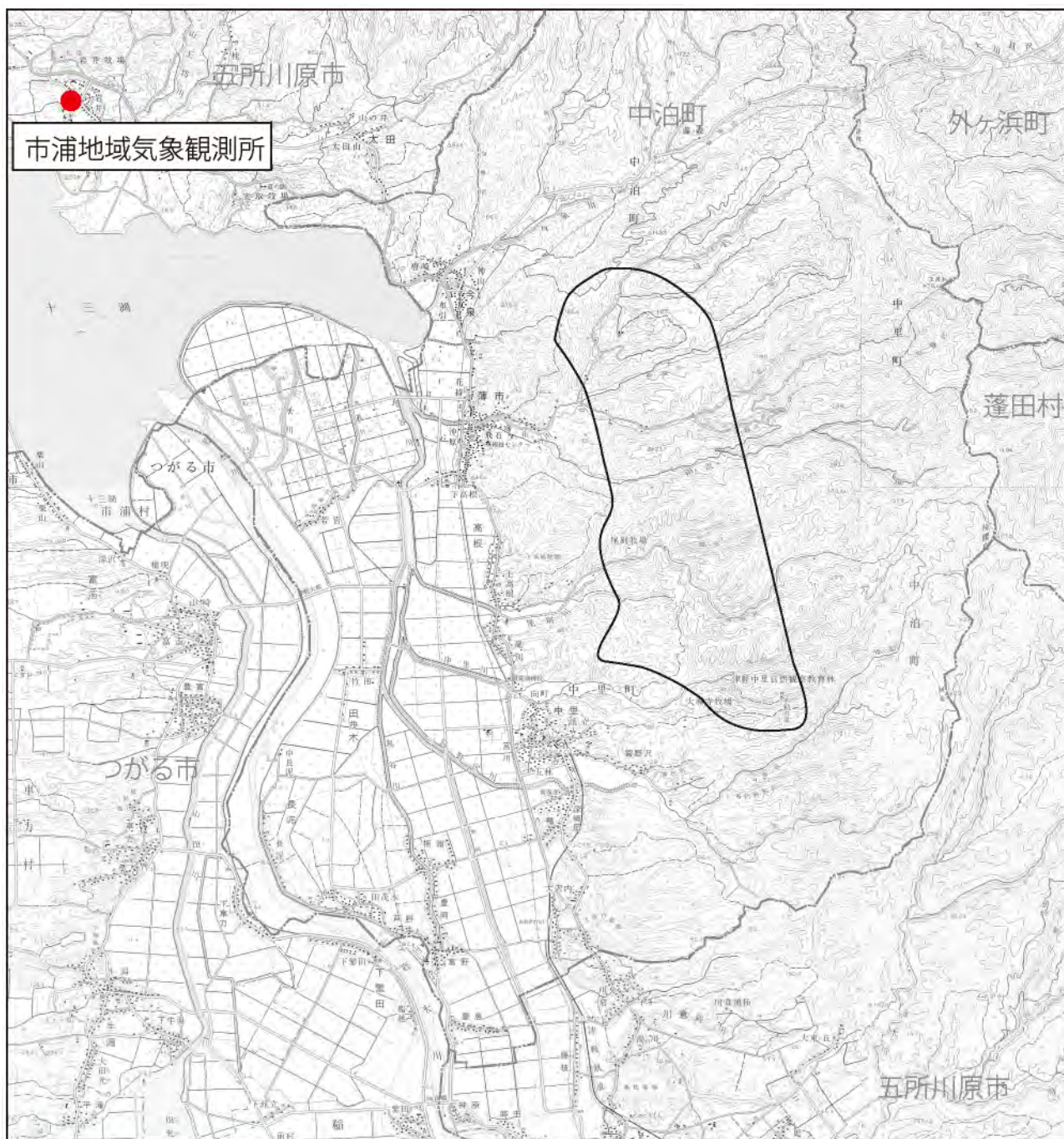
1.1 気象の状況

事業実施想定区域に近い地域気象観測所として、市浦地域気象観測所がある。気象観測所の位置を図 3-1-1-1 に、市浦地域気象観測所における過去 10 年間の気象の状況を表 3-1-1-1 及び図 3-1-1-2 に、過去 10 年間の月別最多風向による風配図を図 3-1-1-3 に、それぞれ示す。

市浦地域気象観測所における 10 年間の平均気温は 10.4℃、月の平均気温では 8 月が 23.1℃と最も高く、1 月が-0.7℃と最も低く氷点下となっている。

降水量は年間で 1,464.7mm であり、月別降水量では 9 月が 183.9mm と最も多く、6 月が 72.4mm と最も少ない。

風速は年平均で 2.2m/s であり、月別では 1 月及び 12 月に 2.6m/s で最も強く、夏季にやや弱くなる傾向がある。最多風向は北西が多く、月別にみると 10 月～4 月は北西方向からの風が、5 月～9 月には東方向からの風がそれぞれ多い。

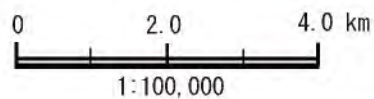


凡 例

○：事業実施想定区域

●：気象観測所

図 3-1-1-1 気象観測所位置



出典：気象庁ホームページ「地域気象観測所一覧」

表 3-1-1-1 気象の概況(市浦地域気象観測所 平成 15 年～平成 24 年 10 ヶ年)

年		気温(平均) (℃)			最多 風向	風速(m/s)		日照 時間 (時)	降水量(mm)	
		平均	日最高	日最低		平均	最大		合計	日最大
平成 15 年		9.9	13.5	6.2	北西	1.5	7	1,380.9	1,542	81
平成 16 年		11.0	14.5	7.4	北西	1.8	9	1,276.9	1,358	50
平成 17 年		10.0	13.3	6.6	北西	2.1	7	1,211.0	1,658	95
平成 18 年		10.0	13.6	6.6	北西	2.2	9	1,232.8	1,262	100
平成 19 年		10.7	14.2	7.2	西北西	2.5	11	1,565.5	1,187	58
平成 20 年		10.5	14.2	7.0	西北西	2.4	10	1,519.5	996.0	55.0
平成 21 年		10.3	14.0	6.5	東	2.4	12.6	1,518.2	1,618.0	83.0
平成 22 年		10.8	14.3	7.4	北西	2.2	10.2	1,371.1	1,897.0	116.5
平成 23 年		10.3	13.9	6.7	北西	2.3	10.1	1,486.0	1,543.5	71.5
平成 24 年		10.2	13.7	6.9	東	2.4	12.7	1,547.8	1,585.5	70.5
10 ヶ年平均		10.4	13.9	6.9	北西	2.2	9.9	1,411.0	1,464.7	78.1
10 カ 年 月 別 平 均	1 月	-0.7	1.8	-3.5	北西	2.6	7.5	32.1	129.9	21.1
	2 月	-0.2	2.7	-3.4	北西	2.5	8.0	60.1	80.9	17.3
	3 月	2.5	5.7	-0.9	西北西	2.5	7.3	108.5	84.3	21.6
	4 月	7.4	11.4	3.2	北西 東北東	2.4	8.0	165.8	91.0	24.8
	5 月	12.3	16.4	8.4	東	2.1	8.0	166.0	95.0	30.3
	6 月	17.1	21.1	13.6	東 東北東	1.8	6.8	166.6	72.4	27.1
	7 月	20.5	23.9	17.7	東	2.1	6.6	134.2	125.5	36.4
	8 月	23.1	27.0	19.7	東	1.7	6.4	177.2	163.7	63.2
	9 月	19.4	23.6	15.4	東	1.8	7.1	158.9	183.9	57.4
	10 月	13.4	17.7	8.8	西北西 北西	1.9	6.4	145.2	117.1	33.2
	11 月	7.7	11.2	3.9	西北西	2.2	7.2	64.8	170.7	31.6
	12 月	2.0	4.6	-1.0	北西	2.6	8.1	31.7	150.7	30.0

出典：気象庁ホームページ(気象統計情報)

注)最大風速は平成 21 年以降から、日最大降水量は平成 20 年以降から、それぞれ小数点第一位まで発表

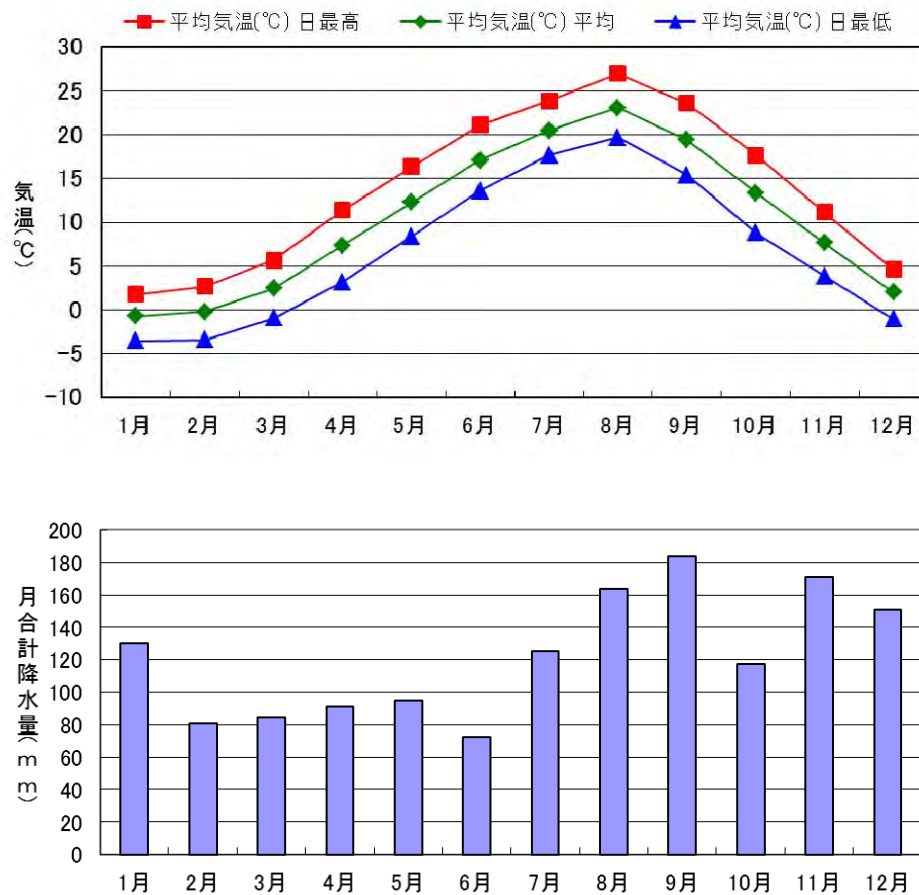


図 3-1-1-2 10 カ年月別平均気温及び降水量

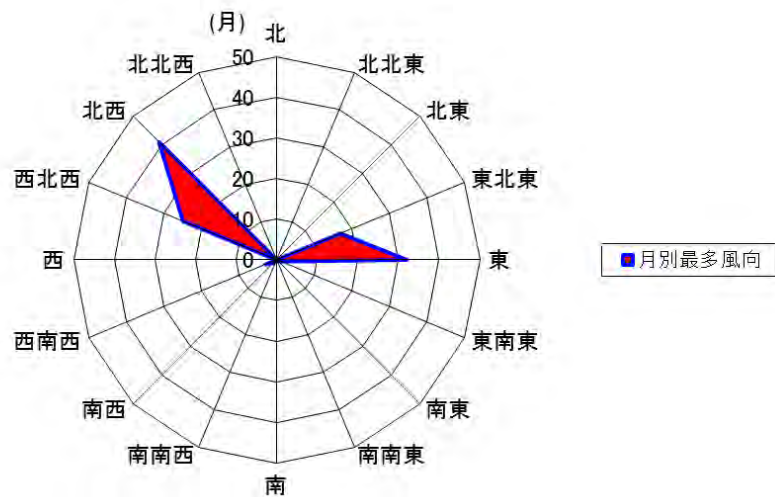


図 3-1-1-3 10 カ年月別最多風向による風配図

1.2 大気質の状況

事業実施想定区域に最も近い青森県の一般環境大気測定局は、南方向に 20km ほど離れた五所川原第三中学校測定局であり、窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び微小粒子状物質について測定が行われている。五所川原第三中学校測定局における過去 5 年間の測定結果を表 3-1-1-2(1)～(4)に、位置を図 3-1-1-4 に、それぞれ示す。

二酸化窒素は過去 5 年間の全ての年度で環境基準値を満足しているが、浮遊粒子状物質では環境基準値を満たしていない年度もある。また、微小粒子状物質は平成 23 年度から測定が行われ、環境基準の短期基準値を超過しているが、長期基準値については満足している。

表 3-1-1-2(1) 二酸化窒素(NO_2)濃度(平成 19 年度～平成 23 年度)(五所川原第三中学校)

年 度	年平均値	1 時間値 の最高値	1 時間値が 0.2ppm を 超 え た 時間数と その割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下 の時間数と その割合		日平均値が 0.06ppm を 超えた日数 とその割合		日 平 均 値 の 年 間 98% 値	98 % 値 評 価 に よ る 日 平 均 値 が 0.06 ppm を 超えた 日 数	環 境 基 準 適 合 状 況
	ppm	ppm	時間	%	時間	%	日	%	ppm	日	長期的 評 価
平成 19	0.005	0.046	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.014	0	○
平成 20	0.005	0.040	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.011	0	○
平成 21	0.005	0.051	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.012	0	○
平成 22	0.005	0.050	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.014	0	○
平成 23	0.004	0.049	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.014	0	○

注) 「98%値評価による日平均値 0.06ppm を超えた日数」とは、1 年間の日平均値のうち低い方から 98%の範囲にあつて、かつ、0.06ppm を超えたものの日数である。

出典：環境白書(平成 20 年版～24 年版 青森県)

表 3-1-1-2(2) 一酸化窒素(NO)濃度及び窒素酸化物(NO+NO₂)濃度(平成 19 年度～平成 23 年度)
(五所川原第三中学校)

一酸化窒素(NO)				窒素酸化物(NO+NO ₂)			
年 度	年平均値	1 時間値の 最高値	日平均値 の年間 98% 値	年平均値	1 時間値の 最高値	日平均値の 年間 98% 値	年平均値 $\frac{NO_2}{NO+NO_2}$
	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	%
平成 19	0.001	0.024	0.003	0.006	0.066	0.017	84.1
平成 20	0.001	0.023	0.003	0.006	0.059	0.013	82.4
平成 21	0.001	0.047	0.003	0.005	0.078	0.016	85.6
平成 22	0.001	0.068	0.003	0.006	0.118	0.017	86.2
平成 23	0.001	0.059	0.005	0.005	0.085	0.019	84.2

出典：環境白書(平成 20 年版～24 年版 青森県)

表 3-1-1-2(3) 浮遊粒子状物質(SPM)濃度(平成 19 年度～平成 23 年度)(五所川原第三中学校)

年 度	年平均値	1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた 時間数	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日 数	1 時間値 の最高値	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 が 2 日以上 連続したこと の有無	環境基準の 長期的評価 による日平 均値が 0.10 mg/m ³ を超 えた日数	環境基準 適合状況
	mg/m ³	時間	日	mg/m ³	mg/m ³	有×・無○	日	長期的 評 価
平成 19	0.027	19	0	0.463	0.073	○	0	○
平成 20	0.026	26	4	0.714	0.080	×	4	×
平成 21	0.023	1	0	0.241	0.049	○	0	○
平成 22	0.025	5	1	1.100	0.049	○	0	○
平成 23	0.022	5	0	0.346	0.050	○	0	○

注)「環境基準の長期的評価による日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日数」とは、日平均値の高い方から 2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち 0.10mg/m³ を超えた日数である。ただし、日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続した延日数のうち、2%除外該当に入っている日数分については除外しない。

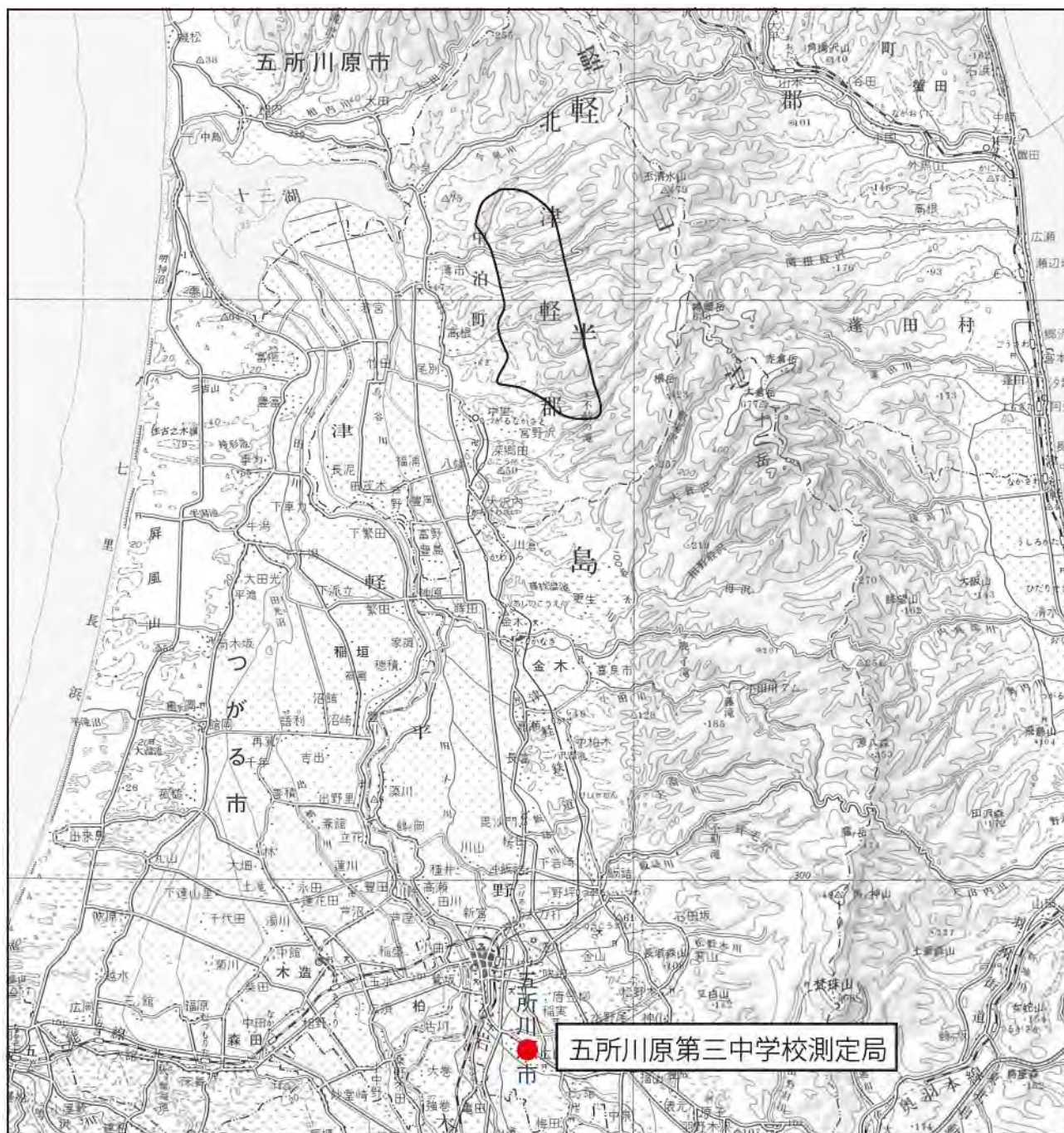
出典：環境白書(平成 20 年版～24 年版 青森県)

表 3-1-1-2(4) 微小粒子状物質濃度(平成 23 年度)(五所川原第三中学校)

年 度	年平均値	日平均値の 年間 98% 値	日平均値が 35 μg/m ³ を 超えた日数	日平均値が 35 μg/m ³ を 超えた日数 の割合	環境基準 適合状況	
	μg/m ³	μg/m ³	日	%	短期基準に 関する評価	長期基準に 関する評価
平成 23	13.7	38.0	11	3.0	×	○

注) 環境基準は「1 年平均値が 15 μg/m³ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35 μg/m³ 以下であること。」と定められている。短期基準に関する評価は日平均値の年間 98% 値について評価、長期基準に関する評価は、測定結果の 1 年平均値について評価する。

出典：環境白書(24 年版 青森県)



五所川原第三中学校測定局

凡 例

- : 事業実施想定区域
- : 一般環境大気測定局

図 3-1-1-4 一般環境大気測定局位置



0 4.0 8.0 km
1:200,000

出典: 環境白書(平成 24 年版 青森県)

1.3 騒音の状況

青森県では、自動車騒音の常時監視が行われている。中泊町では監視地点は設定されていないが、近隣の五所川原市では毎年調査が行われている。

平成 19 年度から平成 23 年度までに五所川原市内で実施された自動車騒音の測定結果を表 3-1-1-3 に、測定地点位置を図 3-1-1-5 にそれぞれ示す。

過去 5 年間の調査では、全ての監視地点で評価対象における環境基準を満たしている。

表 3-1-1-3 自動車騒音の常時監視結果

No.	路線名	測定年度	測点名	環境基準 類 型	測定結果 (dB)		評価対象戸数 (戸)と環境基準 の達成状況 (%)
					昼間	夜間	
1	一般国道 339 号	平成 19	姥菰	C	62	56	24 (100%)
2	一般国道 339 号	平成 20	田町	C	65	57	468 (100%)
3	一般県道 252 号 五所川原停車場線	平成 21	大町	C	60	51	17 (100%)
4	一般県道 151 号 蒔田五所川原線	平成 22	芭蕉	A	50	45	145 (100%)
5	一般国道 101 号	平成 23	田町	C	66	60	468 (100%)

出典：環境白書(平成 20 年版～24 年版 青森県)

1.4 振動の状況

青森県では、振動に係る測定は行われていない。

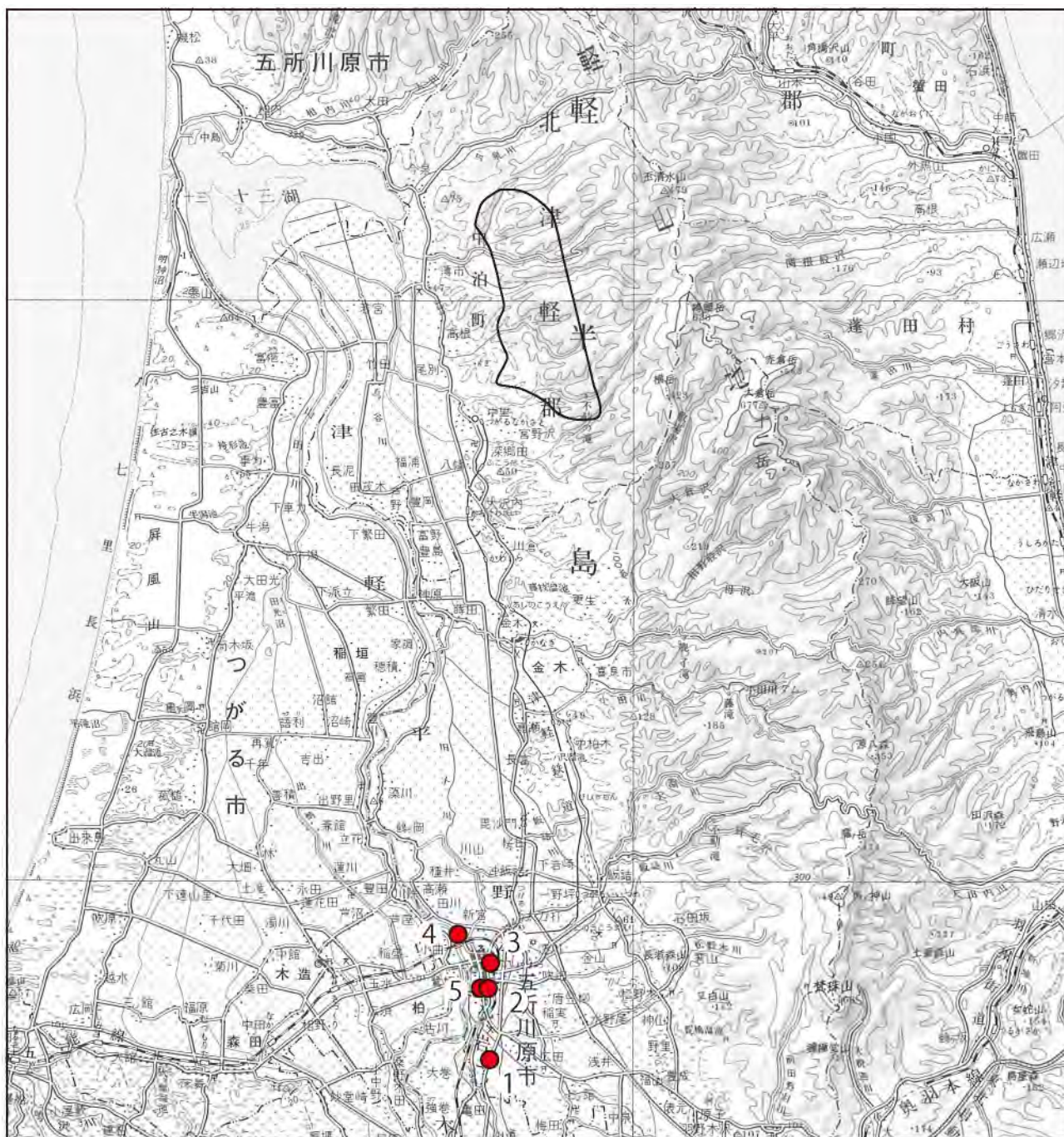


図 3-1-1-5 自動車騒音測定地点

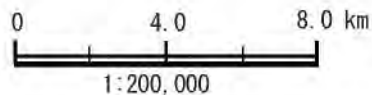
凡 例

○：事業実施想定区域

●：騒音測定地点

- 1.姥范：一般国道 339 号
- 2.田町：一般国道 339 号
- 3.大町：一般県道 252 号(五所川原停車場線)
- 4.芭蕉：一般県道 151 号(蒔田五所川原線)
- 5.田町：一般国道 101 号

出典：環境白書(平成20年版～24年版 青森県)



2. 水環境の状況

2.1 水象の状況

事業実施想定区域の西側を流れる岩木川は、青森・秋田県境の白神山地にある雁森岳に発し、津軽平野を貫流して十三湖に至り日本海に注ぐ一級河川であり、多くの支川が岩木川本川に流入している。

事業実施想定区域及びその周辺の河川名一覧を表 3-1-2-1 に、河川位置を図 3-1-2-1 にそれぞれ示す。

表 3-1-2-1 河川名一覧

水 系	河川名	幹川名	支派川 次 数	区間延長 (m)
岩木川	岩木川	岩木川	幹川	110,401.30
	山田川	岩木川	1	32,270.40
	今泉川	岩木川	1	6,000.00
	昆布掛川	岩木川	1	1,200.00
	薄市川	岩木川	1	4,500.00
	鳥谷川	岩木川	1	15,709.00
	尾別川	鳥谷川	2	4,700.00
	中里川	鳥谷川	2	1,000.00
	宮野沢川	鳥谷川	2	6,500.00

出典：河川調書（平成17年4月1日現在 青森県県土整備部河川砂防課）

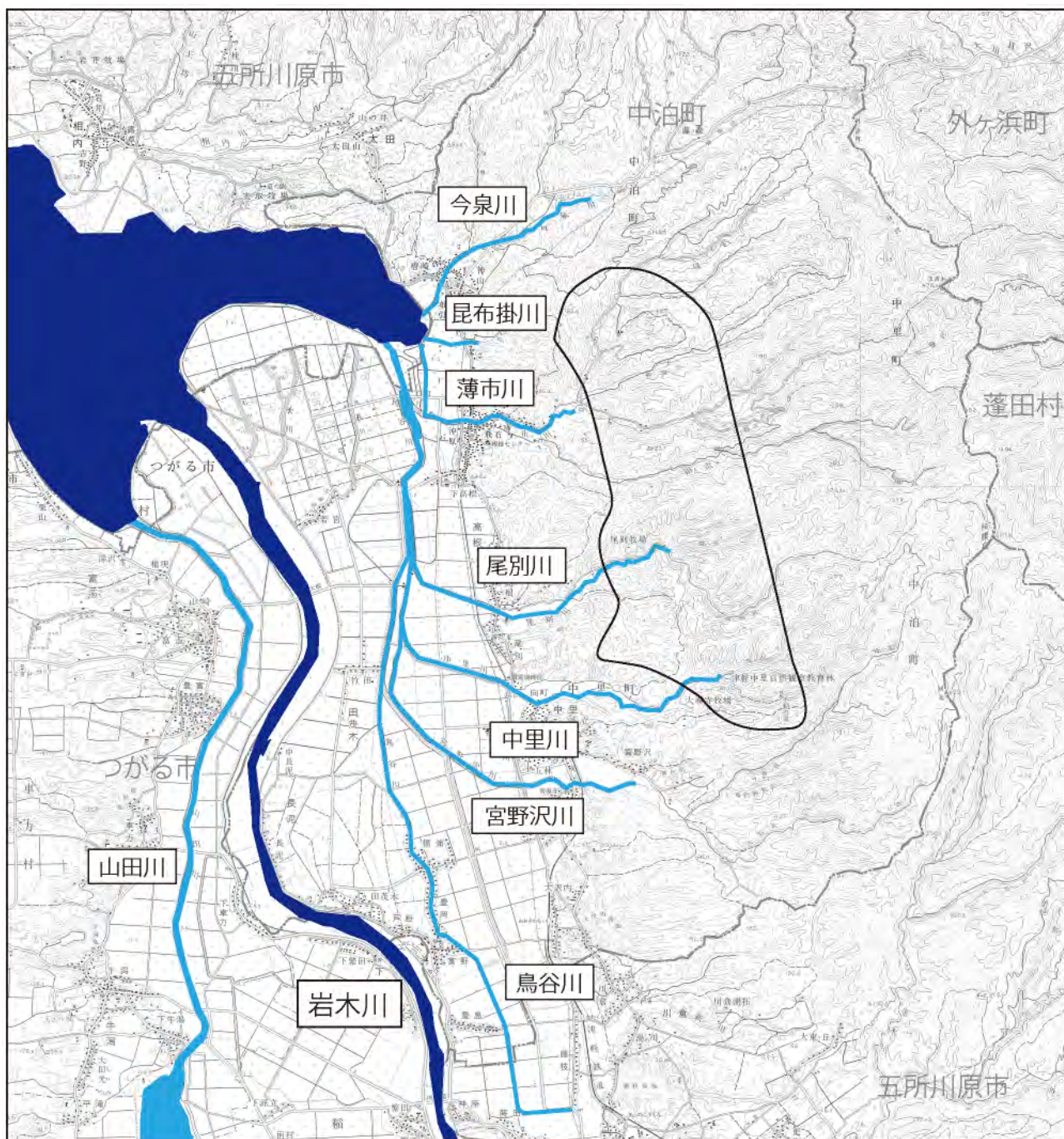
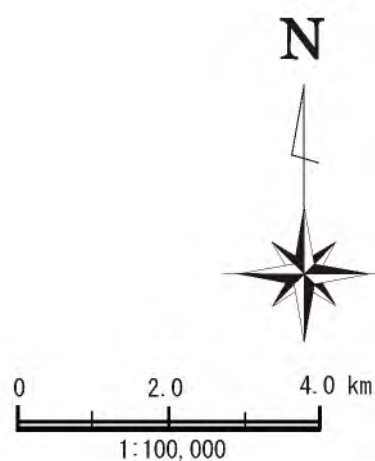


図 3-1-2-1 河川位置

凡 例

- ：事業実施想定区域
- ：一級河川(大臣管理区間)
- ：一級河川(知事管理区間)

出典：河川調書(平成17年4月1日現在 青森県県土整備部河川砂防課)



2.2 水質の状況

青森県では公共用水域水質調査が行われており、事業実施想定区域及びその周辺では、岩木川下流の津軽大橋、十三湖中央、十三湖山田川河口、十三湖鳥谷川河口、岩木川上流の神田橋、山田川の車力橋の計 6 箇所で行われている。なお、これらの河川はそれぞれ環境基準の類型指定がなされており、岩木川下流(神田橋から下流)はB類型に、岩木川上流(神田橋から上流)及び山田川はA類型に、それぞれ指定されている。

公共用水域水質調査地点一覧を表 3-1-2-2 に、公共用水域水質調査地点位置を図 3-1-2-2 にそれぞれ示す。

表 3-1-2-2 公共用水域水質調査地点一覧

水 域 名	地 点 名	類 型
岩 木 川 下 流	津 軽 大 橋	B
	十 三 湖 中 央	B
	十三湖山田川河口	B
	十三湖鳥谷川河口	B
岩 木 川 上 流	神 田 橋	A
山 田 川	車 力 橋	A

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成 23 年度 青森県)

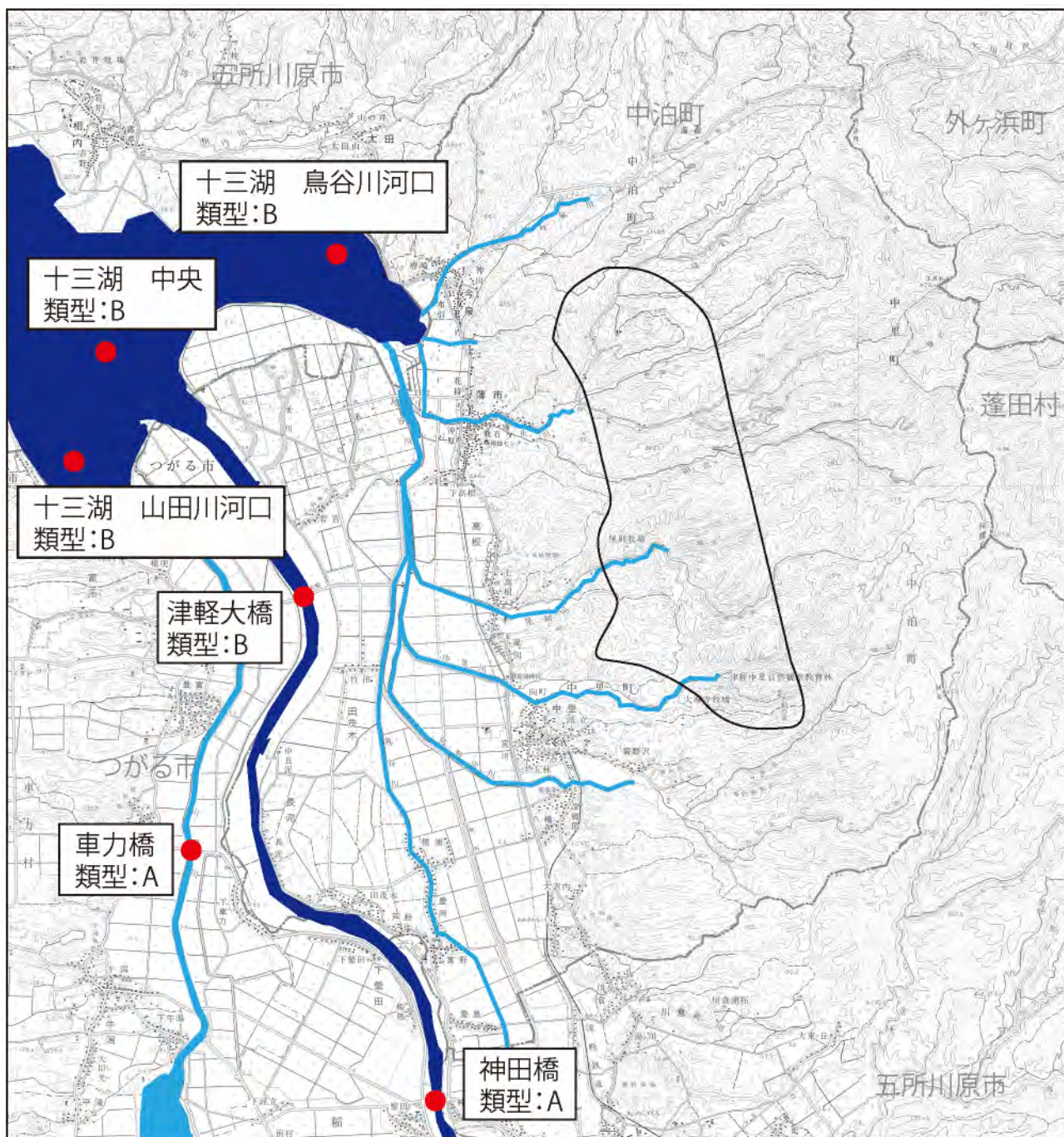


図 3-1-2-2 公共用水域水質調査地点位置

凡 例

○ : 事業実施想定区域

● : 公共用水域水質調査地点

出典: 公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成23年度 青森県)

2.2.1 津軽大橋

津軽大橋における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-3～表3-1-2-4にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(S)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は75%値で評価)は過去5年間、環境基準値を満足し、大腸菌群数は過去5年間、環境基準値を超過している。

なお、健康項目では、水質測定が行われているすべての項目で環境基準値を満足している。

表3-1-2-3 公共用水域水質測定結果(津軽大橋・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：津軽大橋、類型：B

測定項目			単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
				19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)		—	7.4 (6.9～8.3)	7.5 (7.1～9.3)	7.2 (6.9～7.5)	7.3 (7.0～8.0)	7.4 (7.0～8.1)	6.5以上 8.5以下
	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	mg/L	1.4 (0.5～4.2)	1.6 (0.6～6.8)	1.3 (0.6～2.4)	1.5 (0.5～3.5)	1.3 (0.7～3.7)	3以下
		75%値 ^{注1}	mg/L	1.3	1.9	1.6	1.5	1.8	
	浮遊物質(SS)		mg/L	8 (2～21)	9 (3～21)	11 (3～46)	9 (3～26)	11 (3～31)	25以下
	溶存酸素量(DO)		mg/L	11 (8.5～13)	10 (6.6～17)	10 (7.5～13)	10 (6.9～13)	10 (7.5～13)	5以上
	大腸菌群数		MPN /100mL	9,200 (330～ 49,000)	13,000 (790～ 79,000)	12,000 (490～ 79,000)	16,000 (490～ 140,000)	14,000 (790～ 49,000)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

表 3-1-2-4 公共用水域水質測定結果(津軽大橋・健康項目)

《健康項目》

水域名：岩木川下流、地点名：津軽大橋、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.0005	0.01 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.01	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.001	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.005	0.05 以下
砒素	mg/L	0.001	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.03 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.001	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.44	0.56	0.66	0.63	0.54	10 以下
ふっ素	mg/L	0.21	<0.15	<0.15	0.13	0.19	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.35	0.09	0.07	0.09	0.36	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	<0.005	<0.005	0.05 以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成 19 年度～平成 23 年度 青森県)

2.2.2 十三湖 中央

十三湖中央における過去 5 年間の公共用水域水質測定結果を表 3-1-2-5～表 3-1-2-6 にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、溶存酸素(DO)の年平均値は過去 5 年間、環境基準値を満足し、生物化学的酸素要求量(BOD)は 75%値で平成 21 年度、浮遊物質(S S)は平成 20 年度で超過しているが、おおむね満足している。大腸菌群数は平成 21 年度に環境基準値を満足しているが、超過する年度が多くなっている。

なお、健康項目では、水質測定が行われているすべての項目で環境基準値を満足している。

表 3-1-2-5 公共用水域水質測定結果(十三湖 中央・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 中央、類型：B

測定項目			単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
				19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)		—	8.1 (7.6～8.8)	8.0 (7.6～8.6)	7.6 (7.0～8.2)	7.9 (7.3～8.8)	7.5 (6.9～8.0)	6.5 以上 8.5 以下
	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	mg/L	2.1 (1.5～2.8)	2.4 (1.1～4.2)	2.9 (2.0～4.1)	2.1 (1.4～3.0)	1.4 (0.8～2.5)	3 以下
		75%値 ^{注1}	mg/L	2.0	2.4	3.1	2.6	1.3	
	浮遊物質(S S)		mg/L	19 (7～45)	37 (5～98)	20 (4～44)	10 (3～17)	14 (7～21)	25 以下
	溶存酸素量(DO)		mg/L	9.7 (8.2～11)	10 (8.9～11)	9.4 (8.4～11)	9.0 (7.0～13)	9.6 (8.9～11)	5 以上
	大腸菌群数		MPN /100mL	20,000 (140～ 79,000)	6,100 (7～ 22,000)	2,800 (130～ 7,900)	14,000 (790～ 49,000)	24,000 (140～ 92,000)	5,000 以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

表 3-1-2-6 公共用水域水質測定結果(十三湖・健康項目)

《健康項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 中央、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.0005	0.01 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.01	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.001	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.005	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01 以下
総水銀		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	0.0005 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	—	—	—	—	0.43	10 以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成 19 年度～平成 23 年度 青森県)

2.2.3 十三湖 山田川河口

十三湖山田川河口における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-8に示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は75%値で評価)は過去5年間、環境基準値を満足し、浮遊物質(SS)は平成20年度で超過している。大腸菌群数は過去5年間、環境基準値を超過している。

なお、十三湖山田川河口では健康項目の水質測定は行われていない。

表3-1-2-7 公共用水域水質測定結果(十三湖 山田川河口・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 山田川河口、類型：B

測定項目			単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
				19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)		—	8.5 (8.2～8.8)	8.1 (7.6～8.6)	7.7 (7.6～7.9)	7.7 (7.1～8.9)	7.5 (7.4～7.8)	6.5以上 8.5以下
	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	mg/L	3.0 (2.5～3.4)	2.8 (1.4～4.8)	2.6 (1.7～3.4)	2.6 (0.8～4.8)	1.4 (0.5～2.1)	3以下
		75%値 ^{注1}	mg/L	3.0	3.0	2.8	2.6	1.9	
	浮遊物質(SS)		mg/L	19 (9～34)	38 (7～100)	15 (7～20)	13 (3～24)	21 (7～46)	25以下
	溶存酸素量(DO)		mg/L	9.9 (8.7～11)	10 (8.6～11)	9.2 (8.3～10)	8.9 (6.7～11)	9.3 (7.7～11)	5以上
	大腸菌群数		MPN /100mL	20,000 (130～ 79,000)	5,900 (79～ 22,000)	5,500 (490～ 13,000)	34,000 (790～ 130,000)	9,100 (130～ 28,000)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

2.2.4 十三湖 鳥谷川河口

十三湖鳥谷川河口における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-8に示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は75%値で評価)は過去5年間、環境基準値を満足し、浮遊物質(SS)は平成20年度で超過している。大腸菌群数は平成21年度に環境基準値を満足しているが、超過する年度が多くなっている。

なお、十三湖鳥谷川河口では健康項目の水質測定は行われていない。

表3-1-2-8 公共用水域水質測定結果(十三湖 鳥谷川河口・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 鳥谷川河口、類型：B

測定項目			単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
				19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)		—	8.2 (7.4～8.9)	7.9 (7.5～8.0)	7.8 (7.2～8.2)	7.7 (7.4～8.1)	7.6 (7.4～8.0)	6.5以上 8.5以下
	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	mg/L	2.2 (1.3～3.2)	2.7 (0.8～5.2)	1.9 (0.6～2.5)	2.1 (0.9～3.8)	0.9 (0.5～1.3)	3以下
		75%値 ^{注1}	mg/L	2.1	2.8	2.3	2.0	1.1	
	浮遊物質(SS)		mg/L	19 (8～29)	60 (4～130)	25 (6～74)	14 (3～30)	16 (6～31)	25以下
	溶存酸素量(DO)		mg/L	9.7 (8.0～12)	9.3 (8.6～10)	9.1 (7.9～10)	8.7 (6.6～11)	9.7 (9.0～11)	5以上
	大腸菌群数		MPN /100mL	20,000 (140～ 79,000)	7,000 (79～ 24,000)	3,100 (790～ 7,900)	9,300 (790～ 33,000)	6,200 (2～ 24,000)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

2.2.5 神田橋

神田橋における過去 5 年間の公共用水域水質測定結果を表 3-1-2-9～表 3-1-2-10 にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(S)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は 75%値で評価)は過去 5 年間、環境基準値を満足し、大腸菌群数は過去 5 年間、環境基準値を超過している。

なお、健康項目では、水質測定が行われているすべての項目で環境基準値を満足している。

表 3-1-2-9 公共用水域水質測定結果(神田橋・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川上流、地点名：神田橋、類型：A

測定項目			単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
				19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)		—	7.4 (6.9～8.2)	7.4 (7.1～8.2)	7.2 (6.9～7.4)	7.2 (6.9～7.4)	7.3 (6.9～8.5)	6.5 以上 8.5 以下
	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	mg/L	1.2 (0.7～3.6)	1.5 (<0.5～3.4)	1.3 (0.8～2.5)	1.2 (<0.5～2.4)	1.3 (0.8～3.5)	2 以下
		75%値 ^{注1}	mg/L	1.4	1.7	1.5	1.3	1.3	
	浮遊物質(SS)		mg/L	7 (3～12)	11 (3～27)	10 (3～35)	10 (3～22)	11 (2～40)	25 以下
	溶存酸素量(DO)		mg/L	10 (7.9～13)	10 (7.5～12)	9.8 (6.3～13)	9.8 (7.0～13)	10 (7.0～13)	7.5 以上
	大腸菌群数		MPN /100mL	35,000 (1,300～ 240,000)	29,000 (1,300～ 130,000)	31,000 (790～ 130,000)	18,000 (790～ 130,000)	18,000 (2,200～ 79,000)	1,000 以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

表 3-1-2-10 公共用水域水質測定結果(神田橋・健康項目)

《健康項目》

水域名：岩木川上流、地点名：神田橋、類型：A

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	—	0.01 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	—	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.001	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	—	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01 以下
総水銀		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	0.0005 以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成 19 年度～平成 23 年度 青森県)

2.2.6 車力橋

車力橋における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-11～表3-1-2-12にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(S S)、溶存酸素(D O)の年平均値は過去5年間、環境基準値を満足し、生物化学的酸素要求量(B O D)の75%値、及び大腸菌群数は過去5年間、超過している。

健康項目は一部の項目で水質測定が行われており、環境基準値を満足している。

表 3-1-2-11 公共用水域水質測定結果(車力橋・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：山田川、地点名：車力橋、類型：A

測定項目			単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
				19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)		—	7.5 (7.1～7.8)	7.6 (7.2～8.3)	7.4 (7.0～8.9)	7.1 (6.7～7.4)	7.5 (7.0～8.3)	6.5以上 8.5以下
	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	mg/L	3.8 (1.5～6.7)	3.1 (1.3～5.8)	3.1 (1.0～6.9)	2.2 (1.0～3.7)	3.9 (1.2～7.4)	2以下
		75%値 ^{注1}	mg/L	4.5	3.7	3.6	2.8	5.3	
	浮遊物質(SS)		mg/L	19 (7～47)	20 (11～36)	15 (8～21)	18 (8～45)	17 (4～32)	25以下
	溶存酸素量(DO)		mg/L	10 (8.6～13)	10 (7.7～13)	9.7 (7.5～13)	8.4 (5.1～12)	11 (9.3～13)	7.5以上
	大腸菌群数		MPN /100mL	30,000 (330～ 130,000)	16,000 (3,300～ 35,000)	8,800 (7,000～ 11,000)	29,000 (330～ 170,000)	6,300 (790～ 13,000)	1,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

表 3-1-2-12 公共用水域水質測定結果(車力橋・健康項目)

《健康項目》

水域名：山田川、地点名：車力橋、類型：A

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
硝酸性窒素	mg/L	0.56	0.82	0.35	0.76	0.52	—
亜硝酸性窒素	mg/L	0.02	0.023	0.013	0.018	0.016	—
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.57	0.83	0.36	0.77	0.52	10以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成19年度～平成23年度 青森県)

3. 土壌及び地盤の状況

3.1 土壌の状況

事業実施想定区域及びその周辺の土壌分類を図 3-1-3-1 に、土壌分類の凡例を図 3-1-3-2 にそれぞれ示す。

事業実施想定区域の土壌は、主に褐色森林土壌、乾性褐色森林土壌、湿性褐色森林土壌で構成されている。

3.2 地盤の状況

地下水位の低下及び地盤沈下は、事業実施想定区域の位置する中泊町では調査を実施していない。しかし、「第 4 回 青森の水健全化委員会資料(平成 19 年 3 月)」によれば、中泊町の南側に位置する五所川原市街と弘前市街にかけての津軽平野では、地下水位の低下及び地盤沈下が観測されている。

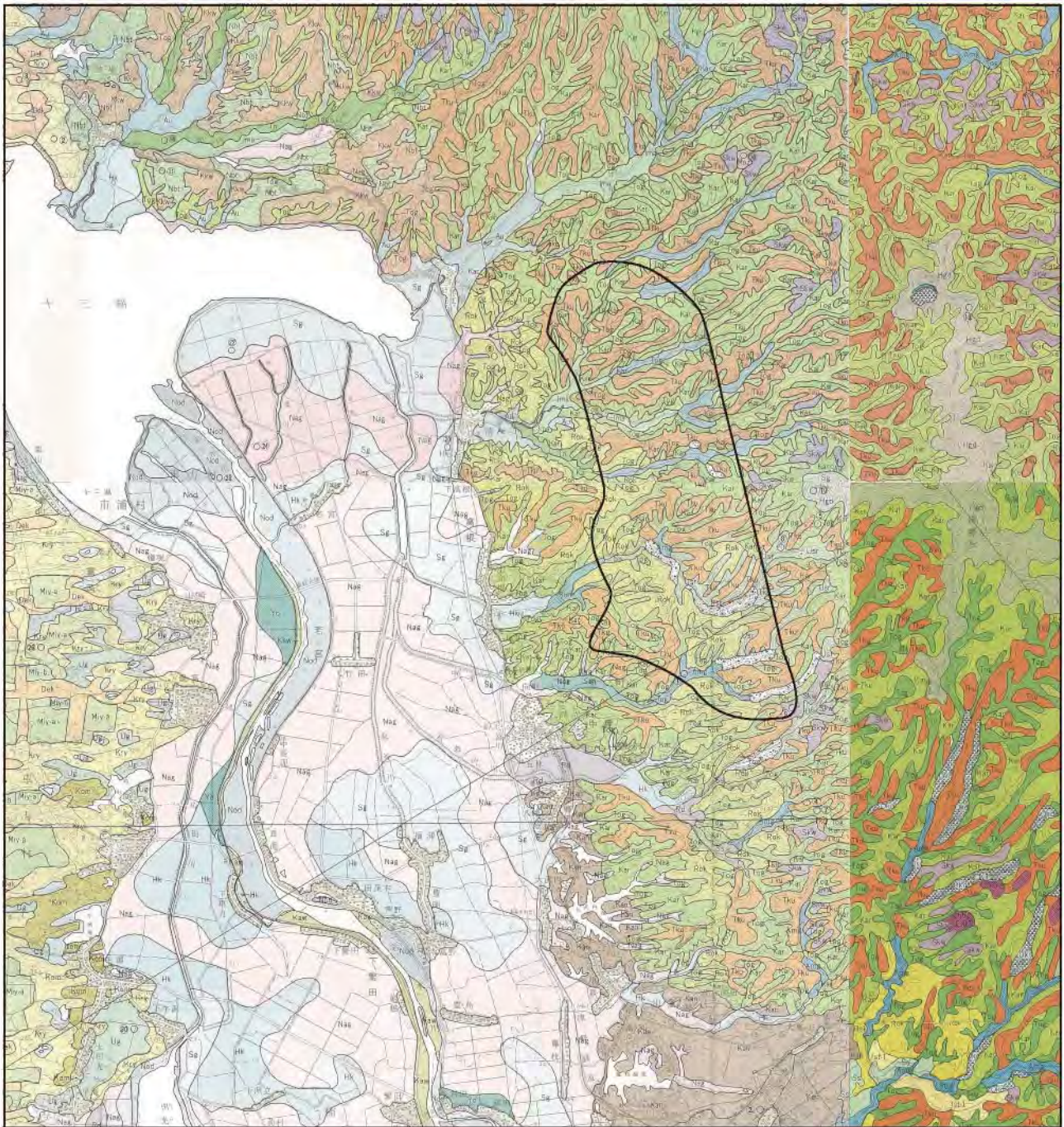
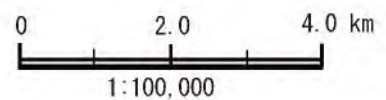


図 3-1-3-1 土壤分類

凡 例

○：事業実施想定区域

出典：「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)
「土地分類基本調査 金木」(青森県 1993年)
「土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田」(青森県 1992年)
「土地分類基本調査 油川」(青森県 1984年)



山地、丘陵地及び台地
Mountain, hill land and upland soils

岩石地
Rocky land



粗粒残積性未熟土壌
Residual immature soils (coarse textured)

Amg 阿弥陀川統
Amidagawa

砂丘未熟土壌
Sand dune rego soils

Kry 栗山統
Kuriyama

Dek 出来島統
Dekishima

淡色黒ボク土壌
Pale ando soils

Ord 折戸統
Orido

乾性褐色森林土壌
Brown forest soils (dry)

Tku 土筆森山統
Tsukushimoriyama

乾性褐色森林土壌（赤褐色系）
Brown forest soils (reddish brown)

Shm 下前統
Shitamai

褐色森林土壌
Brown forest soils

Kar 空沼統
Karanuma

褐色森林土壌（黄褐色系）
Brown forest soils (yellow brown)

Rok 六郷統
Rokugo

Itw 板割統
Itawari

褐色森林土壌（赤褐色系）
Brown forest soils (reddish brown)

Kkw 唐川統
Karakawa

褐色森林土壌（畑地化系）
Brown forest soils (farm land change)

Nbt 網田統
Nabeta

褐色森林土壌（開田化系）
Brown forest soils (rice field change)

Hmn 浜名統
Hamana

湿性褐色森林土壌
Brown forest soils (wet)

Tog 戸ヶ沢統
Togasawa

乾性ポツル化土壌
Podzolic soils (dry)

Skw 砂川統
Sunakawa

湿性ポツル化土壌
Podzolic soils (wet)

Hgd 袴腰岳統
Hakamagoshidake

グライポツル化土壌
Gley podzolic soils

Mog 母沢統
Mozawa

平地の土壌
Lowland soils

細粒灰色低地土壌
Gray lowland soils (fine textured)

Ima 磯松統
Isomatsu

灰色低地土壌
Gray lowland soils

Tm 高根統
Takane

細粒グライ土壌
Gley soils (fine textured)

Au 相内統
Aiuchi

Hk 蓮川統
Hasukawa

グライ土壌
Gley soils

Ump 内真部統
Uchimanpe

粗粒グライ土壌
Gley soils (coarse textured)

Sg 再賀統
Saiga

Nod 野田統
Noda

低位泥炭土壌
Peat soils (low moor)

Nag 長富統
Nagatomi

受蝕土
Eroded soil



その他
Miscellaneous

岩石海岸
Rock coastal

裸出砂丘
Bare sand dune

砂質海岸
Sand Beach

砂州
Beach

湖岸低地
Lacustrine low and

沼沢地
Swamp land

人工平坦地
Artificially deformed area

市街地
Urban area

統の界線
Boundary

○ ③ 試坑点位置及び番号
Locality and number of pit

4. 地形及び地質の状況

4.1 地形の状況

事業実施想定区域及びその周辺の地形分類を図 3-1-4-1 に、地形分類の凡例を図 3-1-4-2 にそれぞれ示す。

事業実施想定区域の地形は、主に山地の緩斜面、一般斜面及び台地・段丘の砂礫台地で構成されている。

4.2 地質の状況

事業実施想定区域及びその周辺の表層地質を図 3-1-4-3 に、表層地質の凡例を図 3-1-4-4 にそれぞれ示す。

事業実施想定区域の地質は、主に硬質頁岩、軽石質凝灰岩、珪藻質泥岩・砂岩、流紋岩で構成されている。

なお、「日本の地形レッドデータブック第 1 集 新装版」(古今書院 1994 年)によると、事業実施想定区域には、重要な地形・地質は報告されていない。

凡 例 LEGEND

山地 MOUNTAINS

緩斜面
Gentle sloping
一般斜面
General slope on mountains
急斜面
Steep slope on mountains

傾斜区分	2	3	4	5	6
		3			
			4	5	
					6

台地・段丘 UPLANDS AND TERRACES

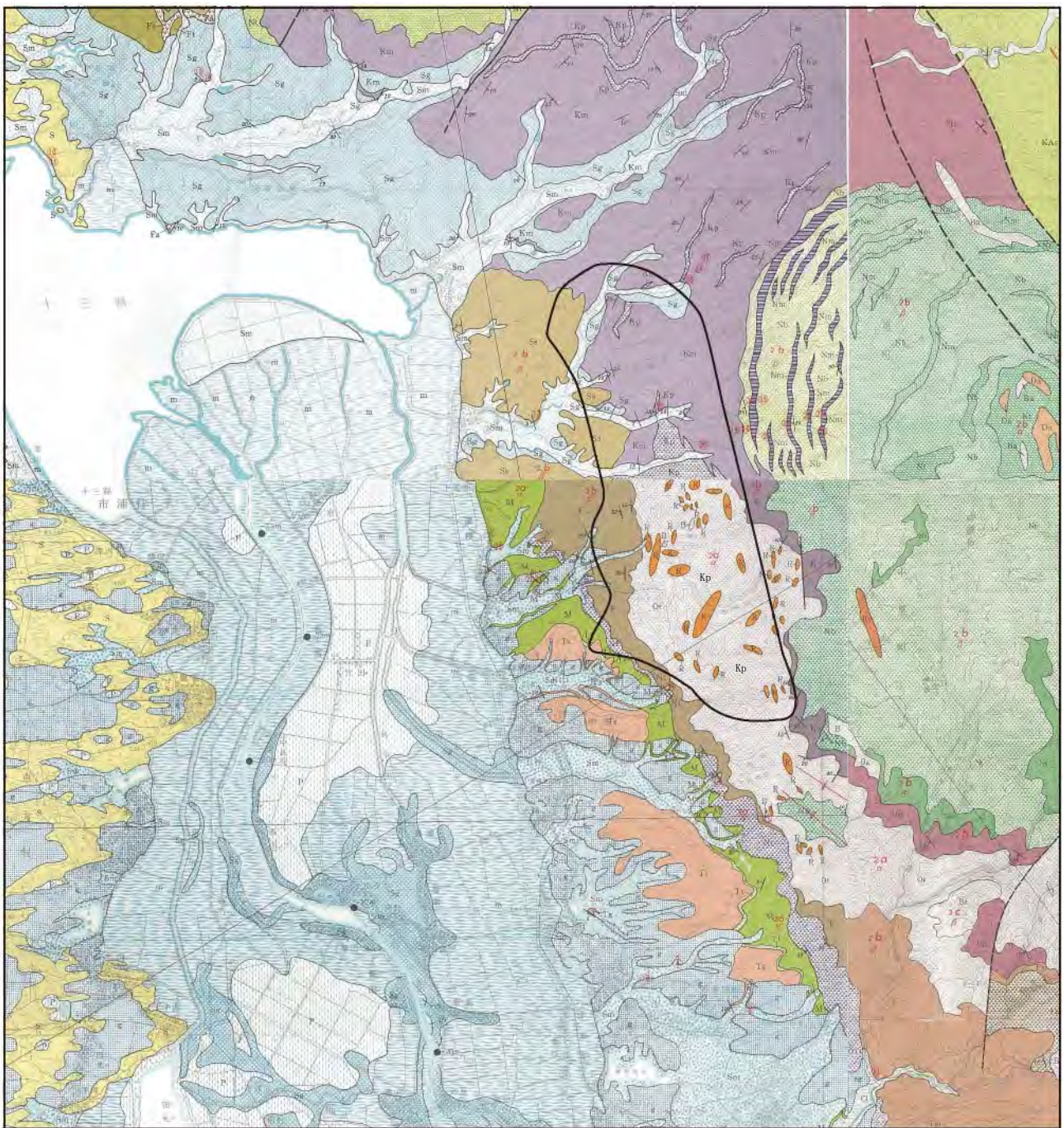
高位面 (I 面) Upper surface	砂礫台地 (上位) Gravel terrace (Upper)	Gt Ia
	砂礫台地 (下位) Gravel terrace (Lower)	Gt Ia
中位面 (II 面) Middle surface	砂礫台地 (上位) Gravel terrace (Upper)	Gt IIa
	砂礫台地 (下位) Gravel terrace (Lower)	Gt IIb
低位面 (III 面) Lower surface	砂礫台地 Gravel terrace	Gt III

低地 LOWLANDS

P	谷底平野 Valley plain	Rb	岩石海岸 Rock coastal
D	三角洲 Delta	Sr	河原 Dry river-bed
Bm	後背湿地 Back marsh		旧河道 Former river course
Cd	被覆砂丘 Sand dune covered with vegetaion		急崖 Cliff
Bd	裸出砂丘 Naked dune		岩礁 Shore reef
Mbd	砂丘間低地 Marsh between dune		崩壊地形 Land slip
Lg	干潟 Dry beach		干拓地 Reclaimed land
Sb	砂質海岸 Sands tone coastal		人工平坦地 Artificially flattened area
Lp	湖岸低地 Lacustrine lowland		河川・溜池 River and pond
Br	砂州 Bar		

出典:「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)

図 3-1-4-2 地形分類凡例



凡 例

○：事業実施想定区域

図 3-1-4-3 表層地質

出典：「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)
「土地分類基本調査 金木」(青森県 1993年)
「土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田」(青森県 1992年)
「土地分類基本調査 油川」(青森県 1984年)



0 2.0 4.0 km
1:100,000

未固結堆積物 Unconsolidated sediments	P	草炭 Peat	
	m	泥・泥炭 Mud, peat	沖積低地堆積物 Alluvial lowland sediments
	Sm	砂・礫・泥 Sand, gravel, mud	
	S	砂 Sand	砂丘砂 Dune sand
	Sg	砂・礫 Sand, gravel	段丘堆積物 Terrace deposits
	Ks	砂岩・泥岩・軽石質凝灰岩 Sandstone, mudstone, pumice tuff	蟹田層 Kanita Formation
	Id	デイサイト Dacite	
	Ia	安山岩溶岩・凝灰角礫岩 Andesitic lava, tuff breccia	今別安山岩類 Imabetsu Andesites
	Ss	珪藻質泥岩・砂岩 Diatomaceous mudstone, sandstone	塩越層 Shiokoshi Formation
	Mr	流紋岩 Rhyolite	三阪流紋岩 Minmaya Rhyolite
固結堆積物 Consolidated sediments	Kp	軽石質凝灰岩 Pumice tuff	
	Kim	硬質頁岩 Hard shale	小泊層 Kodomari Formation
	Nt	安山岩質凝灰岩・凝灰質砂岩 Andesitic tuff, tuffaceous sandstone	
	Nb	粗粒玄武岩類 Dolerite	長根層 Nagane Formation
	Nm	硬質頁岩 Hard shale	
	Ta	輝石安山岩 Pyroxene andesite	龍飛安山岩類 Tappi Andesites
	Ba	玄武岩 Basalt	
	Pa	安山岩 Andesite	
	Fp	プロピライト Propylite	
	Fr	流紋岩 Rhyolite	冬部層 Fuyube Formation
	Ph	頁岩 Hard shale	
	Ft	安山岩質凝灰岩・凝灰角礫岩 Andesitic tuff, tuff braccia	
	Ic	礫岩・泥岩・砂岩 Conglomerate, mudstone, sandstone	磯松層 Isomatsu Formation
	Gp	プロピライト Propylite	
	Gt	安山岩質凝灰岩・凝灰角礫岩 Andesitic tuff, tuff braccia	権現崎層 Gongen-zaki Formation
	Ks	粘板岩・チャート・石灰岩 Slate, chert, limestone	
	D	デイサイト Dacite	小泊岬層 Kodomarimisaki Formation
	And	安山岩 Andesite	
火山性岩石 Volcanic rocks			

出典:「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)

図 3-1-4-4 表層地質凡例

5. 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

5.1 動物の生息の状況

5.1.1 哺乳類

文献調査により生息の情報が得られた哺乳類は 7 目 11 科 18 種であった。文献調査における哺乳類確認種一覧を表 3-1-5-1 に示す。

文献調査により確認された哺乳類 18 種のうち、表 3-1-5-1 に示す重要種の選定基準に該当したのは、ヤマネやカモシカ等 5 種である。

表 3-1-5-1 文献調査哺乳類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献				
			I	II	III	IV	文献 1	文献 2	文献 3	文献 4	文献 5
モグラ	トガリネズミ	ジネズミ							●		
	モグラ	ヒミズ									●
		アズマモグラ							●		●
コウモリ	コウモリ目	コウモリ目							●		
サル	オナガザル	ニホンザル			LP	LP	●	●		●	●
ウサギ	ウサギ	ノウサギ					●			●	●
ネズミ	リス	ニホンリス					●				●
		モモンガ				C					●
		ムササビ				C					●
	ヤマネ	ヤマネ	天			C					●
	ネズミ	ハタネズミ							●		
		ハツカネズミ									●
ネコ	イヌ	タヌキ					●	●		●	●
		キツネ					●	●	●	●	
	イタチ	テン					●			●	●
		イタチ							●	●	●
		アナグマ					●	●			●
ウシ	ウシ	カモシカ	特				●	●		●	●
7 目	11 科	18 種	2 種	0 種	1 種	4 種	8 種	5 種	6 種	7 種	14 種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」

(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 コウモリ目の科名、種名は、種が特定できないため、1科、あるいは1種として扱った。

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

I : 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)

特: 国指定特別天然記念物 天: 国指定天然記念物

II : 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)

国際: 国際希少野生動植物種 国内: 国内希少野生動植物種

III : 「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

IV : 「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(平成 22 年 青森県)

EX: 絶滅野生生物 A: 最重要希少野生生物 B: 重要希少野生生物 C: 希少野生生物

D: 要調査野生生物 LP: 地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

文献 1: 「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献 2: 「第 6 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献 3: 「河川水辺の国勢調査 平成 14 年岩木川両生類・爬虫類・哺乳類」のうち、津軽大橋における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献 4: 「市町村別鳥獣生息状況調査報告書」(平成元年 青森県自然保護課)

文献 5: 「中里町誌」(昭和 41 年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

5.1.2 鳥類

文献調査により生息の情報が得られた鳥類は 16 目 42 科 167 種であった。文献調査における鳥類確認種一覧を表 3-1-5-2(1)～(3)に示す。

文献調査により確認された鳥類のうち、表 3-1-5-2(1)～(3)に示す重要種の選定基準に該当したのは、マガンやオオヨシゴイ、クマタカ、オオセッカなど 59 種である。また、環境省の「ガンカモ類の生息調査」(2009～2013)では、十三湖でハクチョウ類、ガン類、カモ類の飛来（中継地）が報告されている。

表 3-1-5-2(1) 文献調査鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献			
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4
キジ	キジ	ウズラ			VU					●
		ヤマドリ				C		●	●	●
		キジ							●	●
カモ	カモ	ヒシクイ	国天		VU	C			●	
		マガン	国天		NT	C			●	
		コハクチョウ							●	
		オオハクチョウ						●	●	
		オシドリ			DD				●	●
		オカヨシガモ				C		●		
		ヨシガモ				C			●	
		ヒドリガモ							●	
		マガモ					●	●	●	●
		カルガモ					●	●	●	
		ハシビロガモ				C			●	
		オナガガモ							●	
		シマアジ				C			●	
		トモエガモ			VU	C			●	
		コガモ						●	●	
		ホシハジロ							●	
		キンクロハジロ						●	●	
		スズガモ							●	
		ミコアイサ						●		
		カワアイサ						●	●	
		ウミアイサ							●	
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ					●		●	●
		カンムリカイツブリ			LP	C	●			
ハト	ハト	キジバト					●	●	●	●
		アオバト				C	●		●	●
カツオドリ	ウ	カワウ						●		
		ウミウ						●		
ペリカン	サギ	ヨシゴイ			NT	B	●		●	●
		オオヨシゴイ			CR	A			●	
		ゴイサギ					●	●	●	
		アマサギ							●	
		アオサギ						●	●	
		ダイサギ						●	●	
		チュウサギ			NT				●	
	トキ	ヘラサギ			DD				●	
ツル	クイナ	クイナ				B			●	●
		ヒメクイナ				A			●	
		ヒクイナ			NT	A			●	
		バン				C	●		●	●
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ				C			●	
		ホトトギス							●	●
		ツツドリ							●	●
		カッコウ						●	●	●
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	B			●	
チドリ	チドリ	タゲリ				C			●	
		ケリ			DD	B	●		●	
		ムナグロ							●	
		ダイゼン							●	
		イカルチドリ				B			●	
		コチドリ							●	

表 3-1-5-2(2) 文献調査鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献			
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4
チドリ	チドリ	シロチドリ			VU				●	
		メダイチドリ							●	
	シギ	ヤマシギ				B			●	
		タシギ						●	●	
		ツルシギ			VU				●	
		アオアシシギ							●	
		クサシギ						●	●	
		タカブシギ			VU				●	
		イソシギ							●	
		ヒバリシギ				C			●	
		アカエリヒレアシシギ							●	
	カモメ	ユリカモメ						●	●	
		ウミネコ						●	●	
		カモメ							●	
		セグロカモメ						●	●	
		オオセグロカモメ						●	●	
		コアジサシ		国際	VU	A			●	
		アジサシ							●	
タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	B			●	
	タカ	ハチクマ			NT	C			●	
		トビ					●	●	●	●
		オジロワシ	国天	国内	VU	B			●	
		オオワシ	国天	国内	VU	B			●	
		チュウヒ			NT	B			●	
		ハイイロチュウヒ				B			●	
		ツミ				B			●	
		ハイタカ			NT	B			●	
		オオタカ		国内	NT	B			●	
		ノスリ						●	●	●
		ケアシノスリ				B			●	
		クマタカ		国内	EN	A			●	
フクロウ	フクロウ	コノハズク				A				●
ブッポウソウ	カワセミ	フクロウ				C			●	●
		カワセミ					●	●	●	●
キツツキ	キツツキ	ヤマセミ				C			●	
		コゲラ					●		●	
		オオアカゲラ				C			●	
		アカゲラ					●		●	●
ハヤブサ	ハヤブサ	アオゲラ					●		●	●
		チョウゲンボウ				C			●	
		コチョウゲンボウ				C		●	●	
		ハヤブサ		国内	VU	B			●	●
スズメ	サンショウクイモズ	サンショウクイ			VU	B			●	
		モズ					●	●	●	
		アカモズ			EN	A	●			
	カラス	カケス					●		●	
		コクマルガラス						●		
		ミヤマガラス						●		
		ハシボソガラス					●	●	●	
		ハシブトガラス					●	●	●	
	キクイタダキ	キクイタダキ							●	
	シジュウカラ	コガラ							●	
		ヤマガラ					●		●	●
		ヒガラ					●		●	
		シジュウカラ					●	●	●	●
	ヒバリ	ヒバリ					●	●	●	●
	ツバメ	ショウドウツバメ							●	
		ツバメ						●	●	
		イワツバメ						●		
	ヒヨドリ	ヒヨドリ					●		●	●
	ウグイス	ウグイス					●		●	●
		ヤブサメ					●		●	
		エナガ					●		●	
	ムシクイ	エナガ					●		●	
		メボソムシクイ							●	
		エゾムシクイ					●		●	
		センダイムシクイ					●		●	

表 3-1-5-2(3) 文献調査鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献			
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4
スズメ	センニュウ	オオセッカ		国内	EN	A	●		●	
		ヨシキリ					●	●	●	
	レンジャク	コヨシキリ					●	●	●	
		キレンジャク							●	
	ゴジュウカラ	ヒレンジャク							●	
		ゴジュウカラ							●	
	ミソサザイ	ミソサザイ					●		●	
		ムクドリ					●	●	●	●
	カワガラス	コムクドリ							●	
		カワガラス					●		●	
	ヒタキ	マミジロ				C			●	
		トラツグミ							●	
		クロツグミ				C			●	●
		アカハラ					●		●	
		ツグミ						●	●	●
		コルリ					●		●	
		ルリビタキ								●
		ノビタキ						●		
		エゾビタキ							●	
		サメビタキ							●	
		コサメビタキ							●	
		キビタキ					●		●	●
		オオルリ					●		●	
	スズメ	ニュウナイスズメ							●	
		スズメ					●	●	●	●
	セキレイ	キセキレイ					●		●	
		ハクセキレイ					●	●	●	
		セグロセキレイ				C			●	
		ビンズイ							●	
		タヒバリ							●	
	アトリ	アトリ							●	
		カワラヒワ					●	●	●	
		マヒワ							●	
		ベニヒワ							●	
		ベニマシコ							●	
		イスカ				D	●			
		ウソ							●	●
		シメ					●		●	
		イカル							●	●
	ホオジロ	ホオジロ					●	●	●	●
		ホオアカ					●	●	●	
		カシラダカ						●	●	
		ミヤマホオジロ							●	
		ノジコ			NT	C			●	
		アオジ					●	●	●	
		コジュリン			VU	B	●		●	
		オオジュリン				B		●	●	
16目	42科	167種	4種	7種	31種	52種	50種	48種	153種	36種

※1 分類、配列などは「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年 日本鳥学会)に準拠

※2 重要種の選定基準は以下のとおり

I:「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第4次レッドリストの公表について」(平成24年8月28日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010年改訂版)ー」(平成22年 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※3 使用文献は以下のとおり

文献1:「第6回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献2:「河川水辺の国勢調査 平成15年岩木川鳥類」のうち、津軽大橋における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献3:「市町村別鳥獣生息状況調査報告書」(平成元年 青森県自然保護課)

文献4:「中里町誌」(昭和41年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

5.1.3 両生類・爬虫類

文献調査により生息の情報が得られた両生類は2目6科11種、爬虫類は1目3科5種であった。文献調査における両生類・爬虫類確認種一覧を表3-1-5-3に示す。

文献調査により確認された両生類・爬虫類のうち、表3-1-5-3に示す重要種の選定基準に該当したのは、クロサンショウウオやトノサマガエル等4種である。

表3-1-5-3 文献調査両生類・爬虫類確認種一覧

綱名	目名	科名	種名	重要種選定基準				文献		
				I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3
両生綱	有尾目	サンショウウオ	クロサンショウウオ			NT	C	●		
			ハコネサンショウウオ							●
			サンショウウオ類							○
		イモリ	アカハライモリ			NT	C			●
	無尾目	ヒキガエル	アズマヒキガエル					●	●	●
		アマガエル	ニホンアマガエル						●	●
		アカガエル	タゴガエル					●		
			ヤマアカガエル					●		
			トノサマガエル			NT			●	●
		アオガエル	ツチガエル							●
			モリアオガエル							●
			カジカガエル				D			●
	2目	6科	11種	0種	0種	3種	3種	4種	3種	8種
爬虫綱	有鱗目	カナヘビ	ニホンカナヘビ					●		
		ナミヘビ	シマヘビ							●
			ジムグリ							●
			ヤマカガシ							●
		クサリヘビ	ニホンマムシ							●
	1目	3科	5種	0種	0種	0種	0種	1種	0種	4種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成24年度生物リストー」(平成24年 国土交通省)に準拠

※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

I:「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第4次レッドリストの公表について」(平成24年8月28日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010年改訂版)ー」(平成22年 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

文献1:「第5回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献2:「河川水辺の国勢調査 平成14年岩木川両生類・爬虫類・哺乳類」のうち、津軽大橋における確認種(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献3:「中里町誌」(昭和41年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

5.1.4 昆虫類

文献調査により生息の情報が得られた昆虫類（昆虫類及びクモ類）は11目111科355種であった。文献調査における昆虫類確認種一覧を表3-1-5-4(1)～(6)に示す。

文献調査により確認された昆虫類のうち、表3-1-5-4(1)～(6)に示す重要種の選定基準に該当したのは、ヒメシロチョウやアカガネオサムシなど24種である。

表3-1-5-4(1) 文献調査昆虫類認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
クモ	ヒメグモ	Anelosimus属の一種						●
		ヤマトコノハグモ						●
	サラグモ	ダイセツテナガグモ						●
		ノコギリヒザグモ						●
		ニセアカムネグモ						●
		セムシアカムネグモ						●
		クロナンキングモ						●
		ヤガスリサラグモ						●
		コトガリアカムネグモ						●
		トガリアカムネグモ						●
		サラグモ科の一種						○
	アシナガグモ	トガリアシナガグモ						●
		ハラビロアシナガグモ						●
		アシナガグモ						●
		ウロコアシナガグモ						●
		Tetragnatha属の一種						○
	コガネグモ	オニグモ						●
		Araneus属の一種						○
		Cyclosa属の一種						●
		Larinia属の一種						●
		ナカムラオニグモ						●
		Neoscona属の一種						●
		ズグロオニグモ						●
		コガネグモ科の一種						○
	コモリグモ	Alopecosa属の一種						●
		エビチャコモリグモ						●
		Arctosa属の一種						○
		イナダハリゲコモリグモ						●
		ウヅキコモリグモ						●
		Pardosa属の一種						○
		ハテコモリグモ						●
		イモコモリグモ						●
		チビコモリグモ						●
		キバラコモリグモ						●
		コガタコモリグモ						●
		Pirata属の一種						○
		アライトコモリグモ						●
		Trochosa属の一種						○
	シボグモ	シボグモ						●
	タナグモ	Agelena属の一種						●
		ヒメクサグモ						●
	フクログモ	ヤマトコマチグモ						●
		Cheiracanthium属の一種						○
		ハマキフクログモ						●
		ヒメフクログモ						●
		Clubiona属の一種						○
	ワシグモ	トラフワシグモ						●
		チクニヨリメケムリグモ						●
		メキリグモ						●
		ワシグモ科の一種						○
	エビグモ	Philodromus属の一種						●
		ヤマトヤドカリグモ						●
		Thanatus属の一種						○

表 3-1-5-4(2) 文献調査昆虫類認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
クモ	カニグモ	ハナグモ						●
		ワカバグモ						●
		Ozyptila属の一種						●
		トラフカニグモ						●
		クロボシカニグモ						●
		オオヤミイロカニグモ						●
	ハエトリグモ	ネコハエトリ						●
		シッチハエトリ						●
		ウスリーハエトリ						●
		マガネアサヒハエトリ						●
		メガネアサヒハエトリ						●
		Rhene属の一種						●
		ハエトリグモ科の一種						○
トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ			NT	C	●	
	カワトンボ	ミヤマカワトンボ					●	
		ヒガシカワトンボ					●	
	ムカシトンボ	ムカシトンボ					●	
	ヤンマ	アオヤンマ			NT		●	
		ルリボシヤンマ					●	
		オオルリボシヤンマ					●	
		ギンヤンマ					●	
		コシボソヤンマ				B	●	
		ミルンヤンマ					●	
		サナエトンボ					●	
	サナエトンボ	モイワサナエ					●	
		コオニヤンマ					●	
		ヒメサナエ				A	●	
		コサナエ					●	
	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ					●	
	オニヤンマ	オニヤンマ					●	
	エゾトンボ	コヤマトンボ				C	●	
		タカネトンボ					●	
	トンボ	ハラビロトンボ				C	●	
		シオカラトンボ					●	
		オオシオカラトンボ				C	●	
		ナツアカネ					●	●
		マユタテアカネ					●	●
		アキアカネ					●	●
		ノシメトンボ					●	●
		マイコアカネ				B		●
		ウスバカマキリ			DD	B		●
		マルムネハサミムシ科の一種						●
ハサミムシ バッタ	マルムネハサミムシ	マルムネハサミムシ科の一種						●
		セスジツユムシ						●
	ツユムシ	ツユムシ						●
		キリギリス						●
		ウスイロササキリ						●
	ケラ	ホシササキリ						●
		ヒメクサキリ						●
		ケラ						●
	マツムシ	カンタン						●
	コオロギ	タンボオカメコオロギ						●
		エンマコオロギ						●
	ヒバリモドキ	シバズ						●
		ヤチスズ						●
		エゾスズ						●
	バッタ	ヒナバッタ						●
	イナゴ	コバネイナゴ						●
	オンブバッタ	オンブバッタ						●
	ヒシバッタ	ヒメヒシバッタ						●
		Tetrix属の一種						○
カメムシ	コガシラウンカ	アカフコガシラウンカ						●
	ヒシウンカ	ヒシウンカ						●
	ウンカ	ゴマフウンカ						●
		タテヤマヨシウンカ						●
		クロスジオオウンカ						●
	セミ	アブラゼミ					●	
		ニイニイゼミ					●	
		エゾゼミ					●	

表 3-1-5-4(3) 文献調査昆虫類認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
カメムシ	アワフキムシ ヨコバイ	ハマバアワフキ						●
		ツマグロオオヨコバイ						●
		オオヨコバイ						●
		トガリヨコバイ						●
	ハナカメムシ	ツヤヒメハナカメムシ						●
		Orius属の一種						○
	カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ						●
		Apolygus属の一種						●
		モンキマキバカスミカメ						●
		フタトゲムギカスミカメ						●
	ナガカメムシ	Cymus属の一種						●
		ニッポンコバネナガカメムシ						●
		コバネナガカメムシ						●
		ホソメダカナガカメムシ						●
		ヒラタヒョウタンナガカメムシ						●
		ジュウジナガカメムシ						●
	ツノカメムシ	セアカツノカメムシ						●
		ヒメツノカメムシ						●
	カメムシ	ブチヒゲカメムシ						●
		ナガメ						●
		オオトゲシラホシカメムシ						●
		ヒメクロカメムシ						●
	アメンボ	アメンボ					●	
		ヒメアメンボ					●	●
	コオイムシ	コオイムシ			NT	C	●	
	タイコウチ	ミズカマキリ					●	
		ヒメミズカマキリ					●	
	マツモムシ	マツモムシ					●	
トビケラ	エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種						●
チョウ	ボクトウガ	ヒメボクトウ						●
		セセリチョウ					●	
	セセリチョウ	ヒメキマダラセセリ					●	
		コキマダラセセリ					●	
		イチモンジセセリ					●	
		オオチャバネセセリ				C	●	
		コチャバネセセリ					●	
		スジグロチャバネセセリ			NT	C	●	
	シジミチョウ	ルリシジミ					●	●
		ツバメシジミ					●	●
		ベニシジミ					●	●
		ゴマシジミ			注1	C	●	
		ミドリシジミ					●	
		カラスシジミ					●	
		コムラサキ					●	
		サカハチチョウ					●	
		オオウラギンスジヒョウモン					●	●
	タテハチョウ	ヒメアカタテハ					●	
		メスグロヒョウモン					●	
		ウラギンヒョウモン					●	
		クジャクチョウ					●	
		ルリタテハ					●	
		イチモンジチョウ					●	
		シータテハ					●	
		キタテハ					●	●
		アカタテハ						●
		アゲハチョウ					●	
	アゲハチョウ	カラスアゲハ					●	
		キアゲハ					●	●
		オナガアゲハ					●	
	シロチョウ	モンキチョウ					●	●
		ヒメシロチョウ			EN	C	●	
		スジグロシロチョウ					●	
		エゾスジグロシロチョウ					●	
		モンシロチョウ					●	●
		キマダラモドキ			NT		●	
	ジャノメチョウ	クロヒカゲ					●	
		ジャノメチョウ					●	
		ヒメジャノメ					●	●
							●	●

表 3-1-5-4(4) 文献調査昆虫類認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
チョウ	ジャノメチョウ	ヤマキマダラヒカゲ					●	
		オオヒカゲ					●	
		ヒメウラナミジャノメ					●	
		ヒメキマダラヒカゲ					●	
	ツトガ	コブノメイガ						●
		ヘリキスジノメイガ						●
	ヤママユガ	オオミズアオ					●	
	ヒトリガ	シロヒトリ						●
	ヤガ	クロクモヤガ						●
		ナカスジキョトウ						●
		フタオビコヤガ						●
		ヨシヨトウ						●
ハエ	ガガンボ	Nephrotoma hirsuticauda						●
		Nephrotoma属の一種						○
		Styringomyia nipponensis						●
	ムシヒキアブ	アオメアブ						●
		ヒサマツムシヒキ						●
	ハナアブ	ハナダカマガリモンハナアブ						●
		Anasimyia属の一種						○
		ホソヒラタアブ						●
		タテジマクロハナアブ						●
		フタホソヒラタアブ						●
		Melanostoma属の一種						●
		シマアシブトハナアブ						●
		カルマイツヤタマヒラタアブ						●
		キアシマメヒラタアブ						●
		オオハナアブ						●
		アシブトヒラアシヒラタアブ						●
		ハナナガモモブトコハナアブ						●
		ホソヒメヒラタアブ						●
		キタヒメヒラタアブ						●
		モモブトコハナアブ						●
	ミギワバエ	Brachydeutera ibari						●
		ワタナベトゲミギワバエ						●
		Notiphila属の一種						○
		Psilopa flaviantennalis						●
		Psilopa polita						●
	マルズヤセバエ	Scatella calida						●
		キアシアシナガヤセバエ						●
	ヤチバエ	Pherbellia nana reticulata						●
		マダラヤチバエ						●
		ヒゲナガヤチバエ						●
	ミバエ	オオセンダングサミバエ						●
		Tephritis separata						●
		キイロケブカミバエ						●
	クロバエ	コガネキンバエ						●
		ミドリキンバエ						●
		ヒロズキンバエ						●
		Pollenia argenticincta						●
	イエバエ	ツマグロキンバエ						●
		マンシュウハナレメイエバエ						●
		ヤマトハナレメイエバエ						●
		アシマダラハナレメイエバエ						●
		カガハナゲバエ						●
		トーヨーカトリバエ						●
		Phaonia属の一種						●
		イエバエ科の一種						○
	ニクバエ	カワユニクバエ						●
		ニクバエ科の一種						○
コウチュウ	ホソクビゴミムシ	ミイデラゴミムシ						●
	オサムシ	キイロチビゴモクムシ						●
		Amara属の一種						●
		ホシボシゴミムシ						●
		ゴミムシ						●
		メダカチビカワゴミムシ						●
		アカガネオサムシ			VU			●

表 3-1-5-4(5) 文献調査昆虫類認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
コウチュウ	オサムシ	アカガネアオゴミムシ						●
		アオゴミムシ						●
		ミズギワアトキリゴミムシ						●
		セアカヒラタゴミムシ						●
		トックリゴミムシ						●
		コルリアトキリゴミムシ						●
		オオゴミムシ						●
		オオキンナガゴミムシ						●
		Pterostichus属の一種						○
		ヨツモンコミズギワゴミムシ						●
	ハンミョウ	ニワハンミョウ					●	●
		コニワハンミョウ					●	
		エリザハンミョウ				B	●	
	ゲンゴロウ	クロズマメゲンゴロウ						●
		シマケシゲンゴロウ					●	
		チビゲンゴロウ					●	
		ナガケシゲンゴロウ				C	●	
		ケシゲンゴロウ			NT		●	
		キベリクロヒメゲンゴロウ			NT			●
		ツブゲンゴロウ					●	
		チャイロシマチビゲンゴロウ					●	
		オオヒメゲンゴロウ						●
		ヒメゲンゴロウ						●
	コガシラミズムシ	コガシラミズムシ						●
	コツブゲンゴロウ	ヒゲブトコツブゲンゴロウ				D	●	
	ガムシ	ゴマフガムシ						●
		ヒメセマルガムシ						●
		キイロヒラタガムシ						●
		ガムシ			NT			●
		ガムシ科の一種						○
	ハネカクシ	ハネカクシ科の一種						●
	マルハナノミ	Cyphon属の一種						●
		トビイロマルハナノミ						●
	クワガタムシ	スジクワガタ					●	
		コクワガタ					●	
		アカアシクワガタ					●	
		ノコギリクワガタ					●	
	コガネムシ	ツヤコガネ						●
		ヒメコガネ						●
		セマダラコガネ						●
		オオビロウドコガネ						●
		ウスチャコガネ						●
		マメコガネ						●
	コメツキムシ	サビキコリ						●
		Ampedus属の一種						●
		コガタクシコメツキ						●
		Paracardiophorus属の一種						●
	ジョウカイボン	コメツキムシ科の一種						○
		ムネアカフトジョウカイ						●
	ジョウカイモドキ	ミヤマクビアカジョウカイ						●
		イシハラヒメジョウカイモドキ						●
	テントウムシ	カメノコテントウ						●
		ナナホシテントウ						●
		ナミテントウ						●
		ジュウサンホシテントウ						●
		ヒメカメノコテントウ						●
		クロヘリヒメテントウ						●
		テントウムシ科の一種						○
	キスイムシ	Atomaria属の一種						●
	オオキスイムシ	ヨツボシオオキスイ						●
	ヒメマキムシ	ヒメマキムシ科の一種						●
	ケシキスイ	クロハナケシキスイ						●
		ヨツボシケシキスイ						●
		Meligethes属の一種						●
		ケシキスイ科の一種						○
	カミキリモドキ	キイロカミキリモドキ東日本亜種						●

表 3-1-5-4(6) 文献調査昆虫類認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
コウチュウ	ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ						●
		コスナゴミムシダマシ						●
		スナゴミムシダマシ						●
		カクスナゴミムシダマシ						●
	カミキリムシ	ウスバカミキリ						●
	ハムシ	キタカミナリハムシ						●
		アカバナカミナリハムシ						●
		Altica属の一種						○
		アオバネサルハムシ						●
		Bruchus属の一種						●
		ハッカハムシ						●
		オオルリハムシ			NT	C		●
		ヤナギハムシ						●
		スズキミドリトビハムシ						●
		キアシチビツツハムシ						●
		タテスジキツツハムシ						●
		ニセセスジツツハムシ						●
		イチゴハムシ						●
		チュウジョウアシナガトビハムシ						●
		ヨモギトビハムシ						●
		カクムネチビトビハムシ						●
		イネクビボソハムシ						●
		ヤナギルリハムシ						●
		ナトビハムシ						●
		ダイコンナガスネトビハムシ						●
		ミソハギハムシ						●
	オトシブミ	ヒメクロオトシブミ						●
		セアカヒメオトシブミ						●
	ゾウムシ	ダイコンサルゾウムシ						●
		ヤナギシリジロゾウムシ						●
		アカイネゾウモドキ						●
		コフキゾウムシ						●
		Limnobaris albosparsa						●
		ヤナギノミゾウムシ						●
	イネゾウムシ	クロイネゾウモドキ						●
	チビゾウムシ	ホソチビゾウムシ						●
ハチ	ハバチ	カブラハバチ						●
	アシブトコバチ	キアシブトコバチ						●
	マルハラコバチ	ルリマルハラコバチ						●
	セイボウ	ホンドツヤセイボウ						●
	アリ	クロヤマアリ						●
		キイロケアリ						●
		トビイロケアリ						●
		カワラケアリ						●
		トビイロシワアリ						●
	ドロバチ	ケブカスジドロバチ						●
		フトカギチビドロバチ						●
	ギングチバチ	イワタギングチ						●
		クロタビギングチ						●
		ヒメハヤバチ						●
	アリマキバチ	アシジロヨコバイバチ						●
		ヒメイスカバチ						●
		キアシマエダテバチ						●
	ミツバチ	セイヨウミツバチ						●
	ムカシハナバチ	オオムカシハナバチ						●
		スミスメンハナバチ						●
		ホソメンハナバチ						●
		Hylaeus属の一種						○
	コハナバチ	アカガネコハナバチ						●
		フタモンカタコハナバチ						●
	ハキリバチ	アルファルフアハキリバチ						●
		バラハキリバチ						●
	ケアシハナバチ	シロアシサレダマバチ				C		●
11目	111科	355種	0種	0種	13種	18種	88種	280種

- ※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」
(平成 24 年 国土交通省)に準拠
- ※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない
- ※3 重要種の選定基準は以下のとおり
- I :「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物
 - II :「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種
 - III :「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
 - IV :「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(平成 22 年 青森県)
EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物
D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物
- ※4 使用文献は以下のとおり
- 文献 1:「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)
 - 文献 2:「河川水辺の国勢調査 平成 20 年岩木川陸上昆虫類等」のうち、津軽大橋における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)
- ※5 選定基準の注釈は以下のとおり
- 注 1)「ゴマシジミ北海道・東北亜種」に対し NT ランク指定がなされている。

5.1.5 魚類

文献調査により生息の情報が得られた魚類は 8 目 17 科 41 種であった。文献調査における魚類確認種一覧を表 3-1-5-5 に示す。

文献調査により確認された魚類のうち、表 3-1-5-5 に示す重要種の選定基準に該当したのは、ドジョウ、シロウオ、チチブなど 8 種である。

表 3-1-5-5 文献調査魚類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献1	文献2	文献3
			I	II	III	IV			
コイ	コイ	コイ (飼育品種)						●	
		ギンブナ					●	●	
		フナ属の一種						○	●
		タイリクバラタナゴ						●	
		オイカワ						●	
		アブラハヤ							●
		ウグイ					●	●	
		ウグイ属の一種						○	
		モツゴ					●	●	
		ビワヒガイ						●	
		タモロコ						●	
		ゼゼラ			注1			●	
		カマツカ						●	
		ニゴイ						●	
	ドジョウ	ドジョウ			DD		●		●
		シマドジョウ					●		
ナマズ	ギギ	ギギ						●	
	ナマズ	ナマズ					●		
サケ	キュウリウオ	ワカサギ					●	●	
	アユ	アユ					●		●
	シラウオ	シラウオ						●	
	サケ	アメマス					●		
		アメマス類					○		●
		サケ					●		
		サクラマス(ヤマメ)			NT 注2		●		
ダツ	メダカ	メダカ類			NT 注3	B 注3	●		●
トゲウオ	トゲウオ	イトヨ類			VU 注4	B 注4	●		
カサゴ	カジカ	カジカ			EN・NT 注5	B・C 注5	●		●
スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス						●	
	ヒイラギ	ヒイラギ						●	
	ボラ	ボラ						●	
		メナダ						●	
	ハゼ	シロウオ			VU	C	●		
		スミウキゴリ					●		
		ウキゴリ						●	
		ビリンゴ					●	●	
		ジュズカケハゼ			NT 注6		●		
		マハゼ						●	
		アシシロハゼ					●	●	
		トウヨシノボリ (型不明)						●	
		ヨシノボリ類					○		
		ヌマチチブ						●	
		チチブ				D	●		
	タイワンドジョウ	カムルチー					●		
		ヌマガレイ					●	●	
カレイ	カレイ						●	●	
8目	17科	41種	0種	0種	7種	5種	22種	25種	8種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

- I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物
II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種
III:「第 4 次レッドリストの公表について(汽水・淡水魚類)」(平成 25 年 2 月 1 日公表 環境省)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
IV:「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)－」(平成 22 年 青森県)
EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物
D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

- 文献 1:「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)
文献 2:「河川水辺の国勢調査 平成 19 年岩木川魚類」のうち、岩木川河口および長泥における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)
文献 3:「中里町誌」(昭和 41 年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

※5 選定基準の注釈は以下のとおり

- 注1) 選定基準ⅢでVUランクに指定されているが、琵琶湖原産の種であることから国内外来種(日本国内で本来の分布域以外に持ち込まれた種)と考えられる。
注2) サクラマス(ヤマメ)としてNTランクに指定されている。
注3) メダカは現在、北日本集団および南日本集団に分類されており、選定基準Ⅲでは両種共にVUランクに、選定基準Ⅳでは北日本集団がBランクにそれぞれ指定されている。なお、本来の分布域をみると、青森県は全域が北日本集団の生息地となっている。
注4) イトヨ類にはイトヨ日本海型、イトヨ太平洋型、ハリヨが含まれており、選定基準Ⅲでは本州のイトヨ日本海型がLPランクに、ハリヨがCRランクに、選定基準Ⅳではイトヨ(日本海型、太平洋型の区分なし)がBランクにそれぞれ指定されている。
注5) カジカは現在、小卵型、中卵型、大卵型に分類されており、選定基準Ⅲでは小卵型および中卵型がENランクに、大卵型がNTランクに、選定基準Ⅳでは小卵型および中卵型がBランクに、大卵型がCランクに、それぞれ指定されている。
注6) ジュズカケハゼは現在、鳥海山周辺固有種、富山固有種、関東固有種、広域分布種に分類されており、選定基準Ⅲでは鳥海山周辺固有種および富山固有種がCRランクに、関東固有種がENランクに、広域分布種がNTランクにそれぞれ指定されている。

5.1.6 底生動物

文献調査により生息の情報が得られた底生動物は 16 目 26 科 43 種であった。文献調査における底生動物確認種一覧を表 3-1-5-6 に示す。

文献調査により確認された底生動物のうち、表 3-1-5-6 に示す重要種の選定基準に該当したのは、ヤマトシジミ及びガムシの 2 種である。

表 3-1-5-6 文献調査底生動物確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献		
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3
ザラカイメン	タンスイカイメン	ヨワカイメン						●	
イシガイ	イシガイ	ドブガイ						●	
		イシガイ						●	
マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ			NT		●		
		Corbicula属の一種						○	
サシバゴカイ	ゴカイ	Hediste属の一種						●	
イトゴカイ	イトゴカイ	Notomastus属の一種						●	
オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ科の一種						●	
イトミミズ	ミズミミズ	エラミミズ						●	
		Dero属の一種						●	
		Limnodrilus属の一種						●	
		Nais属の一種						●	
		ヨゴレミズミミズ						●	
		アカオビミズミミズ						●	
		ミズミミズ科の一種						○	
ヨコエビ	ユンボヨコエビ	ニッポンドロソコエビ						●	
ワラジムシ	ミズムシ	ミズムシ						●	
	コツブムシ	Gnorimosphaeroma属の一種						●	
アミ	アミ	イサザアミ						●	
エビ	テナガエビ	スジエビ						●	
	ヌマエビ	ヌマエビ							●
	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ科の一種							●
	モクズガニ	モクズガニ						●	●
		Hemigrapsus属の一種						○	
カゲロウ	コカゲロウ	Cloeon属の一種						●	
トンボ	トンボ	Sympetrum属の一種						●	
カメムシ	アメンボ	アメンボ						●	
	カタビロアメンボ	カタビロアメンボ科の一種						●	
	コオイムシ	オオコオイムシ						●	
	マツモムシ	マツモムシ						●	
ハエ	ユスリカ	Chironomus属の一種						●	
		Cladopelma属の一種						●	
		Cryptochironomus属の一種						●	
		Glyptotendipes属の一種						●	
		Lipiniella属の一種						●	
		Paratendipes属の一種						●	
		Polypedilum属の一種						●	
		Stictochironomus属の一種						●	
		Tanytarsus属の一種						●	
		ユスリカ科の一種						○	
	カ	カ科の一種						●	
コウチュウ	ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ						●	
		オオヒメゲンゴロウ						●	
		ヒメゲンゴロウ						●	
		ガムシ			NT			●	
	マルハナノミ	Cyphon属の一種						●	
16目	26科	43種	0種	0種	2種	0種	1種	39種	3種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」

(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)－」(平成 22 年 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

文献 1:「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献 2:「河川水辺の国勢調査 平成 21 年岩木川底生動物」のうち、津軽大橋における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献 3:「中里町誌」(昭和 41 年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

5.2 植物の生育の状況

5.2.1 植物相

文献調査により生育の情報が得られた植物は 100 科 466 種であった。文献調査における植物確認種一覧を表 3-1-5-7(1)～(9)に示す。

文献調査により確認された植物のうち、表 3-1-5-7(1)～(9)に示す重要種の選定基準に該当したのは、オキナグサ、サルメンエビネ等 6 種である。

5.2.2 植生

事業実施想定区域及びその周辺の現存植生を図 3-1-5-1 に示す。

事業実施想定区域及びその周辺の植生は、主にヒノキアスナロ群落、ブナ-ミズナラ群落及びスギ植林である。

表 3-1-5-7(1) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
シダ植物	トクサ	スギナ					●	●
		イヌスギナ					●	
	ゼンマイ	ゼンマイ						●
	コバノイシカグマ	ワラビ					●	●
	オシダ	オシダ						●
		サカゲイノデ					●	
	ヒメシダ	ミゾシダ					●	
		ヒメシダ					●	
	メシダ	クサソテツ					●	
		コウヤワラビ					●	
種子植物 裸子植物	マツ	アカマツ						●
		クロマツ					●	●
	スギ	スギ						●
	ヒノキ	ヒノキアスナロ						●
	イヌガヤ	イヌガヤ						●
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	クルミ	オニグルミ					●	●
		サワグルミ						●
	ヤナギ	ドロノキ						●
		セイヨウハコヤナギ					●	
		ヤマナラシ					●	
		バッコヤナギ					●	
		カワヤナギ					●	
		ネコヤナギ						●
		イヌコリヤナギ					●	
		シロヤナギ					●	
		コリヤナギ						●
		エゾノキヌヤナギ					●	
		オオタチヤナギ					●	
		オノエヤナギ					●	
		タチヤナギ					●	
		オオバヤナギ					●	●
	カバノキ	ヤシャブシ						●
		ケヤマハンノキ					●	
		ヤマハンノキ					●	
		ダケカンバ						●
		ツノハシバミ					●	
	ブナ	クリ					●	●
		ブナ						●
		ミズナラ						●
		カシワ						●
		コナラ						●
	ニレ	ハルニレ					●	
		ケヤキ					●	
	クワ	コウゾ						●
		カナムグラ					●	
		カラハナソウ					●	●
		ヤマグワ					●	
	イラクサ	カラムシ						●
		アカソ					●	●
		ミヤマイラクサ						●
		アオミズ					●	
		エゾイラクサ					●	
	タデ	ミズヒキ					●	●
		ヤナギタデ					●	

表 3-1-5-7(2) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	タデ	オオイヌタデ					●	
		イヌタデ					●	
		サデクサ					●	
		ヤノネグサ					●	
		イシミカワ					●	
		ママコノシリヌグイ					●	
		アキノウナギツカミ					●	
		ミゾソバ					●	●
		オオミゾソバ					●	
		ミチヤナギ					●	
		イタドリ					●	●
		オオイタドリ					●	
		スイバ						●
		ヒメスイバ					●	●
		ギシギシ					●	●
		エゾノギシギシ					●	
	スベリヒユ	スベリヒユ					●	
	ナデシコ	オランダミミナグサ					●	
		ミミナグサ					●	
		カワラナデシコ						
		オオヤマフスマ					●	
		ツメクサ					●	
		ノミノフスマ					●	
		ウシハコベ					●	●
		ミドリハコベ					●	
	アカザ	シロザ					●	
		アカザ					●	
		コアカザ					●	
	ヒユ	ヒナタイノコズチ					●	
	モクレン	ホオノキ						●
		コブシ						●
	クスノキ	クロモジ						●
		アブラチャン						●
	キンポウゲ	ニリンソウ						●
		イチリンソウ						●
		リュウキンカ						●
		ボタンヅル					●	
		オキナグサ			VU	A		●
		ツルキツネノボタン					●	
		ウマノアシガタ					●	●
		タガラシ					●	
		キツネノボタン					●	●
		アキカラマツ					●	●
	シラネアオイ	シラネアオイ						●
	メギ	ヘビノボラズ						●
		イカリソウ						●
	アケビ	ミツバアケビ						
	ツヅラフジ	アオツヅラフジ					●	
		コウモリカズラ					●	
	スイレン	ジュンサイ						●
		ヒツジグサ						●
	ドクダミ	ドクダミ					●	
	ウマノスズクサ	カンアオイ						●
	オトギリソウ	オトギリソウ					●	●

表 3-1-5-7(3) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	オトギリソウ	ミズオトギリ					●	
	ケシ	クサノオウ						●
		ムラサキケマン						●
	アブラナ	セイヨウアブラナ					●	
		ナズナ					●	
		タネツケバナ					●	
		コンロンソウ					●	
		ミズタガラシ						●
		オランダガラシ					●	
		ハマダイコン					●	
		イヌガラシ					●	
		スカシタゴボウ					●	
	ベンケイソウ	ツルマンネングサ					●	
	ユキノシタ	トリアシショウマ						●
		ウツギ						●
		ノリウツギ					●	
		イワガラミ						●
		ズダヤクシュ						●
		キンミズヒキ					●	●
	バラ	ヘビイチゴ					●	●
		ヤブヘビイチゴ					●	
		オオダイコンソウ					●	
		ダイコンソウ					●	
		ヒメヘビイチゴ					●	
		ミツバツチグリ					●	
		ウワミズザクラ						●
		エゾヤマザクラ						●
		カスミザクラ						●
		ノイバラ					●	●
		クサイチゴ						●
		ナワシロイチゴ					●	
		ナガボノワレモコウ					●	
		ナナカマド						●
	マメ	クサネム					●	
		イタチハギ					●	
		ヤブマメ					●	
		ツルマメ					●	
		ヤハズソウ					●	
		ハマエンドウ					●	
		エゾノレンリソウ					●	
		ヤマハギ					●	
		メドハギ					●	
		セイヨウミヤコグサ					●	
		ミヤコグサ					●	
		コメツブウマゴヤシ					●	
		シナガワハギ					●	
		クズ					●	●
		ハリエンジュ						●
		クララ					●	●
		エンジュ						●
		コメツブツメクサ					●	
		ムラサキツメクサ					●	
		シロツメクサ					●	●
		ツルフジバカマ					●	●

表 3-1-5-7(4) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	マメ	クサフジ					●	
		ヒロハクサフジ					●	
		フジ					●	●
	カタバミ	カタバミ					●	
		エゾタチカタバミ					●	
	フウロソウ	ゲンノショウコ					●	
	トウダイグサ	エノキグサ					●	
	ユズリハ	エゾユズリハ						●
	ミカン	ミヤマシキミ						●
		サンショウ					●	●
	ニガキ	ニガキ					●	
	ウルシ	ツタウルシ					●	●
		ヌルデ					●	●
		ヤマウルシ						●
	カエデ	ハウチワカエデ						●
		イタヤカエデ						●
		ヤマモミジ						●
		エゾイタヤ					●	●
		アカイタヤ					●	
	トチノキ	トチノキ						●
	ツリフネソウ	ツリフネソウ					●	
	モチノキ	イヌツゲ						●
		ツルツゲ						●
		アカミノイヌツゲ						●
	ニシキギ	ツルウメモドキ					●	●
		コマユミ						●
	ツゲ	フッキソウ						●
	クロウメモドキ	クマヤナギ					●	●
	ブドウ	ノブドウ					●	
		ヤマブドウ						●
		エビヅル						●
	シナノキ	シナノキ					●	●
	ジンチョウゲ	オニシバリ						●
	グミ	ナツグミ						●
		トウグミ					●	
		アキグミ						●
	スマレ	タチツボスマレ					●	●
		スマレ						●
		スマレサイシン						●
		ツボスマレ					●	
	キブシ	キブシ						●
	ミゾハコベ	ミゾハコベ					●	
	ウリ	ゴキヅル					●	
		アマチャヅル					●	
		アレチウリ					●	
	ミソハギ	ミソハギ					●	
		エゾミソハギ					●	
		キカシグサ					●	
	ヒシ	ヒシ					●	
	アカバナ	ミズタマソウ					●	
		アカバナ					●	
		チョウジタデ					●	
		メマツヨイグサ					●	
		オオマツヨイグサ					●	●

表 3-1-5-7(5) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	アリノトウグサ	アリノトウグサ					●	
		ホザキノフサモ					●	
	ミズキ	アオキ						●
		ミズキ					●	●
		クマノミズキ					●	
	ウコギ	ケヤマウコギ					●	
		コシアブラ						●
		ウコギ						●
		ヤマウコギ						●
		ウド					●	●
		タラノキ					●	●
		ハリブキ						●
		ハリギリ					●	●
		トチバニンジン						●
		シシウド						●
	セリ	エゾニュウ					●	
		シャク						●
		ドクゼリ					●	
		ミツバ					●	
		オオハナウド					●	
		オオチドメ					●	
		セリ					●	●
		ヤブニンジン						●
		ヤブジラミ					●	●
	イチヤクソウ	ベニバナイチヤクソウ						●
		ジンヨウイチヤクソウ						●
	ツツジ	ハナヒリノキ						●
		ムラサキヤシオ						●
		ヤマツツジ						●
		ホツツジ						●
		クロマメノキ						●
	ヤブコウジ	ヤブコウジ						●
	サクラソウ	オカトラノオ					●	●
		ヌマトラノオ					●	
		コナスビ					●	
		クサレダマ					●	
	エゴノキ	エゴノキ					●	●
	モクセイ	ヤチダモ					●	
		ミヤマイボタ					●	
	ガガイモ	シロバナカモメヅル					●	
		ガガイモ					●	
	アカネ	ヤエムグラ					●	●
		ホソバナヨツバムグラ					●	
		クルマムグラ						●
		キバナカワラマツバ					●	
		ツルアリドオシ						●
		ヘクソカズラ					●	
		アカネ					●	●
		アカネムグラ					●	
	ヒルガオ	ヒルガオ					●	
	ムラサキ	ハナイバナ					●	
		ワスレナグサ					●	
		ヒレハリソウ					●	
		キュウリグサ					●	

表 3-1-5-7(6) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花	クマツヅラ	ムラサキシキブ						●
	シソ	クルマバナ					●	
		トウバナ					●	
		カキドオシ					●	●
		ヒメオドリコソウ					●	
		シロネ					●	
		ヒメシロネ					●	
		コシロネ					●	
		エゾシロネ					●	●
		ハッカ					●	
		ウツボグサ					●	
		ヒメナミキ					●	
		イヌゴマ					●	
		ニガクサ					●	
	ナス	オオマルバノホロシ				C	●	
	ゴマノハグサ	アメリカアゼナ					●	
		アゼナ					●	
		トキワハゼ					●	
		タチイヌノフグリ					●	
		オオイヌノフグリ					●	
	オオバコ	オオバコ					●	
		トウオオバコ					●	
		ヘラオオバコ					●	
	スイカズラ	キンギンボク					●	●
		エゾニワトコ					●	
		ニワトコ					●	●
		ガマズミ						●
		オオカメノキ					●	●
		カンボク					●	●
		ケナシヤブデマリ					●	
		マルバゴマギ					●	
		タニウツギ					●	●
	オミナエシ	オミナエシ						●
		オトコエシ						●
	キキョウ	ツリガネニンジン						●
		ツルニンジン						●
		ミゾカクシ					●	
		キキョウ			VU	B		●
	キク	ノコギリソウ					●	
		エゾノコギリソウ						●
		ノブキ						●
		ブタクサ					●	
		オオブタクサ					●	
		ヨモギ					●	●
		オトコヨモギ					●	●
		ハマオトコヨモギ					●	
		オオヨモギ					●	
		コンギク						●
		アメリカセンダングサ					●	
		モミジガサ						●
		ヨブスマソウ						●
		ヤブタバコ						●
		トキンソウ					●	
		フランスギク					●	

表 3-1-5-7(7) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花	キク	ヒメアザミ						●
		ノアザミ					●	
		マアザミ						●
		アメリカオニアザミ					●	
		サワアザミ						●
		アレチノギク						●
		ヒメムカシヨモギ					●	
		ハルジオン					●	
		ヒヨドリバナ					●	●
		ヨツバヒヨドリ					●	
		サワヒヨドリ					●	
		ハハコグサ					●	
		ククイモ					●	
		コウリントランポポ					●	
		ブタナ					●	
		オグルマ					●	●
		オオヂシバリ					●	
		ニガナ					●	●
		ハナニガナ					●	
		アキノノゲシ					●	
		トゲチシャ					●	
		アキタブキ					●	
		コウゾリナ					●	
		オオハンゴンソウ					●	
		ハンゴンソウ					●	●
		ノボロギク					●	
		セイタカアワダチソウ					●	
		オオアワダチソウ					●	
		アキノキリンソウ						●
		オニノゲシ					●	
		ハチジョウナ					●	
		ヒメジョオン					●	
		アカミタンポポ					●	
		セイヨウタンポポ					●	
		ヤクシソウ						●
		オニタビラコ					●	●
種子植物 被子植物 単子葉植物	オモダカ	ヘラオモダカ					●	
		サジオモダカ					●	
		オモダカ					●	
	ヒルムシロ	ホソバミズヒキモ					●	
	ユリ	ノビル					●	
		ツバメオモト						●
		ホウチャクソウ						●
		チゴユリ						●
		ヤブカンゾウ						●
		ミズギボウシ						●
		オオバギボウシ					●	
		オニユリ						●
		クルマユリ						●
		マイヅルソウ						●
		ツクバネソウ						●
		オオナルコユリ					●	
		サルトリイバラ						●
		シオデ					●	●

表 3-1-5-7(8) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 単子葉植物	ユリ	ヤマカシユウ						●
		エンレイソウ						●
	ヤマノイモ	ヤマノイモ					●	
		オニドコロ					●	
	アヤメ	ハナショウブ						●
		カキツバタ			NT	B		●
		キショウブ					●	
		アヤメ						●
	イグサ	ヒロハノコウガイゼキショウ					●	
		イ					●	
		タチコウガイゼキショウ					●	
		コウガイゼキショウ					●	
		クサイ					●	
		ハリコウガイゼキショウ					●	
		イヌイ					●	
		スズメノヤリ					●	
	ツユクサ	ツユクサ					●	
		イボクサ					●	
	イネ	アオカモジグサ					●	
		カモジグサ					●	
		コヌカグサ					●	
		ハイコヌカグサ					●	
		スズメノテッポウ					●	
		ハルガヤ					●	
		コブナグサ					●	
		カラスムギ						●
		ヤクナガイヌムギ					●	
		ハマチャヒキ					●	
		キツネガヤ					●	
		ヤマアワ					●	
		カモガヤ					●	
		イヌビエ					●	
		シナダレスズメガヤ					●	
		カゼクサ					●	
		オニウシノケグサ					●	
		ヒロハノウシノケグサ					●	
		ドジョウツナギ					●	
		シラゲガヤ					●	
		チガヤ					●	
		チゴザサ					●	
		ネズミムギ					●	
		オギ					●	
		ススキ					●	
		クサヨシ					●	
		カナリークサヨシ					●	
		オオアワガエリ					●	
		ヨシ					●	
		ミゾイチゴツナギ					●	
		スズメノカタビラ					●	●
		ナガハグサ					●	
		オオスズメノカタビラ					●	
		チシマザサ					●	●
		チマキザサ					●	
		マコモ					●	

表 3-1-5-7(9) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
種子植物 被子植物 単子葉植物	イネ	シバ					●	
	サトイモ	ショウブ					●	●
		マムシグサ						●
		ミズバショウ						●
		カラスビシャク					●	●
		ザゼンソウ						●
	ウキクサ	アオウキクサ					●	
		ウキクサ					●	
	ガマ	ヒメガマ					●	
		ガマ					●	
	カヤツリグサ	ウキヤガラ					●	
		ミノボロスゲ					●	
		クロカワズスゲ					●	
		カサスゲ					●	
		カンスゲ						●
		シオクグ					●	
		オオカワズスゲ					●	
		アゼスゲ					●	
		オニナルコスゲ					●	
		マツバイ					●	
		ハリイ					●	
		ヒメヌマハリイ					●	
		フトイ					●	
		カンガレイ					●	
		サンカクイ					●	
		クロアブラガヤ					●	
		ツルアブラガヤ					●	
		アブラガヤ						●
	ラン	エビネ			NT	B		●
		サルメンエビネ			VU	A		●
		ギンラン						●
		サイハイラン						●
		シュンラン						●
		エゾスズラン						●
-	100科	466種	0種	0種	5種	6種	331種	197種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」
(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 重要種の選定基準は以下の通り

I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(平成 22 年 青森県)

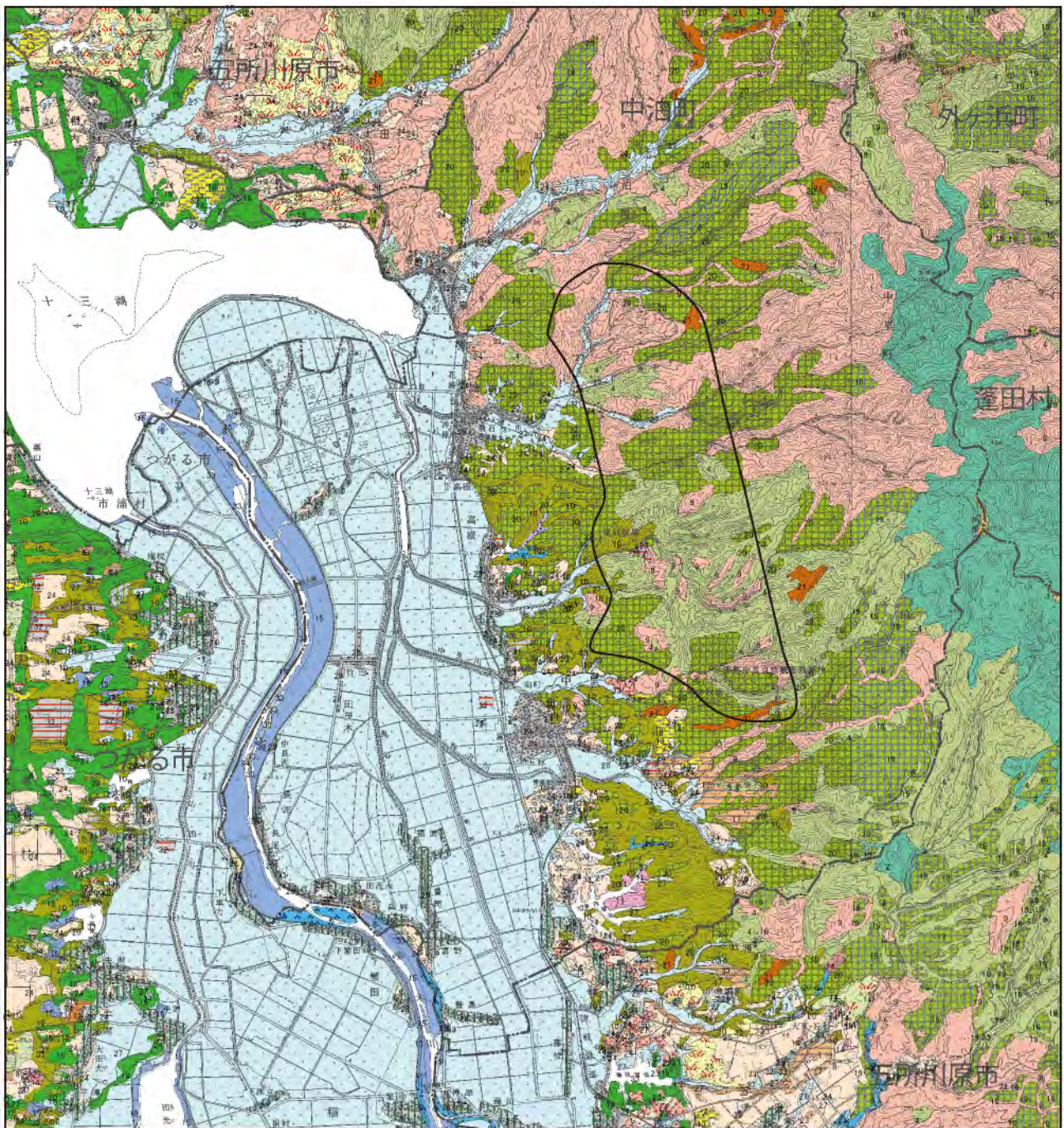
EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※3 使用文献

文献1:「河川水辺の国勢調査 平成17年岩木川植物」のうち、十三湖東岸、鳥谷川河口、岩木川河口、津軽大橋、
長泥、豊島における確認種(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献2:「中里町誌」(昭和41年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋



凡 例

○：事業実施想定区域

- | | | |
|------------------|-----------------|--------------------|
| 1 ササ自然草原 | 9 ブナミズナラ群落 | 22 落葉広葉樹植林 |
| 2 チシマザサ・ブナ群落 | 10 カシワミズナラ群落 | 23 落葉果樹園 |
| 3 エゾイタヤ・シナノキ群落 | 11 アカマツ群落 | 24 畑地雑草群落 |
| 4 ヒノキ・アスナロ群落 | 12 ササ草原 | 25 牧草地 |
| 5 ジュウモンジ・サワグルミ群落 | 13 ススキ群落 | 26 牧草地、ゴルフ場、飛行場 |
| 6 ヤナギ低木群落 | 14 タラノキ・マイチゴ群落 | 27 水田雑草群落 |
| 7 ハンノキ・ヤチダモ群落 | 15 ヨシクラス | 28 市街地 |
| 8 自然低木群落 | 16 塩沼地植生 | 29 緑の多い住宅地 |
| | 17 アカマツ植林 | 30 緑の多い住宅地、公園、墓地 |
| | 18 クロマツ植林 | 31 造成地、採石場 |
| | 19 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 32 造成地、採石場、人為裸地、焼跡 |
| | 20 スギ植林 | 33 開放水域 |
| | 21 カラマツ植林 | 34 自然裸地 |

図 3-1-5-1 現存植生



出典：現存植生図

小泊 平成11年 環境省、金木 平成11年 環境省
 蟹田 平成11年 環境省、油川 平成11年 環境省

0 2.0 4.0 km
 1:100,000

5.2.3 重要な植物群落

事業実施想定区域及びその周辺に生育する重要な植物群落一覧を表 3-1-5-8 に、位置を図 3-1-5-2 にそれぞれ示す。

表 3-1-5-8 事業実施想定区域及びその周辺に生育する重要な植物群落一覧

特定植物群落	概 要
袴腰岳の風衝地植物群落	ヒメノガリヤス-ミヤマキタアザミ群落、チシマザサ群落、ベニバナイチゴ群落等から成る。特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なものとして選定されている。
車力のクロマツ林	藩政時代より残るクロマツ林で、村民の森として公園に利用されている。人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないものとして選定されている。

出典：青森県自然環境情報図(環境庁 平成元年)

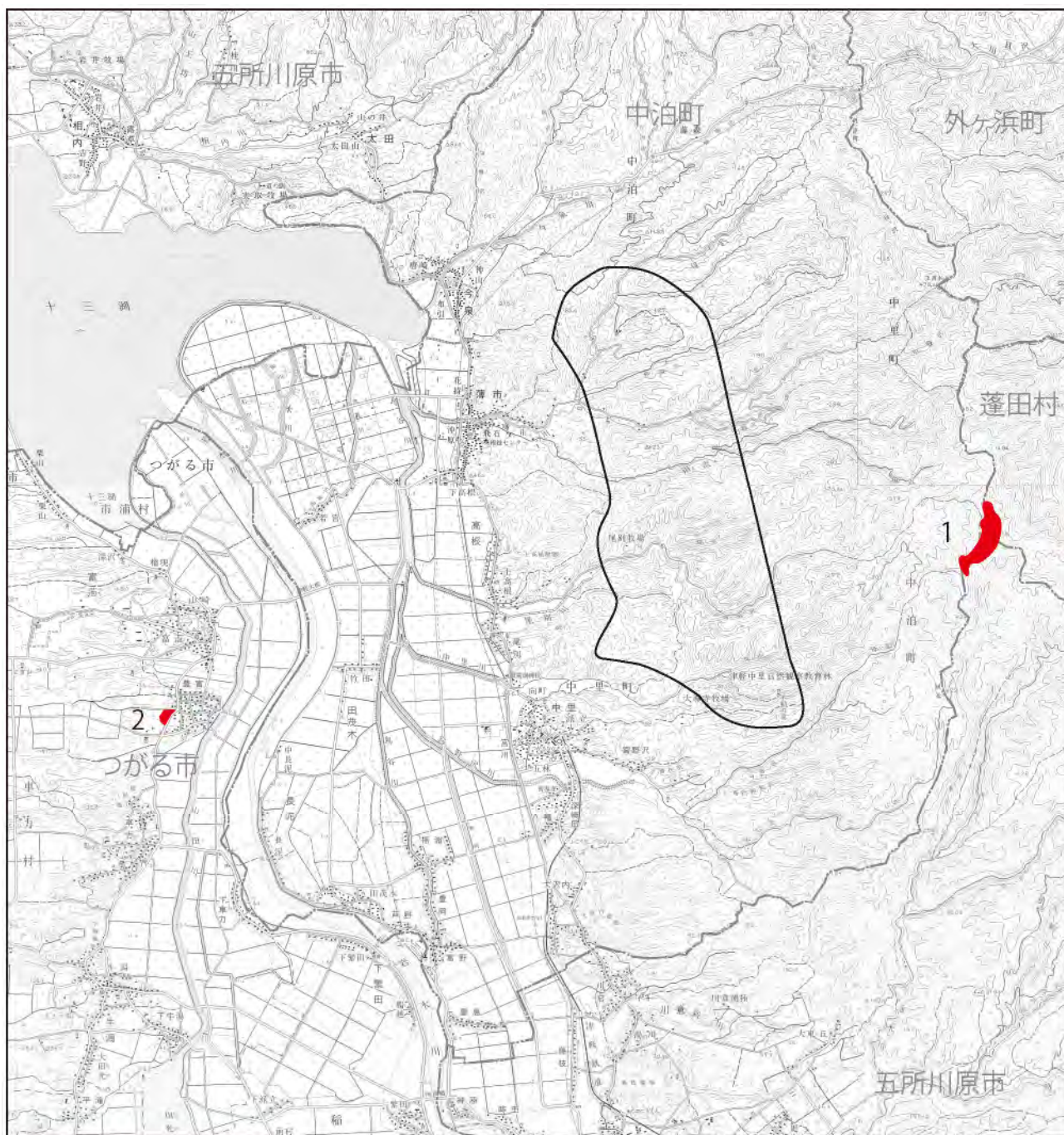
5.2.4 巨樹・巨木

事業実施想定区域及びその周辺に生育する巨樹・巨木一覧を表 3-1-5-9 に、位置を図 3-1-5-3 にそれぞれ示す。

表 3-1-5-9 事業実施想定区域及びその周辺に生育する巨樹・巨木一覧

No.	樹 種	区 分	所在地
1	コ ナ ラ	単 木	中里町高根小金石
2	ス ギ	単 木	車力村富范権現伊豆神社
3	ケ ヤ キ	単 木	車力村富范権現伊豆神社
4	クロマツ	単 木	車力村富范稲荷神社
5	クロマツ	単 木	車力村豊富屏風山天満宮
6	イチョウ	単 木	車力村牛潟潟上八幡宮
7	クロマツ	単 木	車力村下牛潟宗像神社
8	クロマツ	単 木	車力村下牛潟観音
9	アカマツ	単 木	金木町金木芦野

出典：第4回自然環境基礎調査(環境庁 1991年)



凡 例

○：事業実施想定区域

■：重要な植物群落

1：袴腰岳の風衝地植物群落

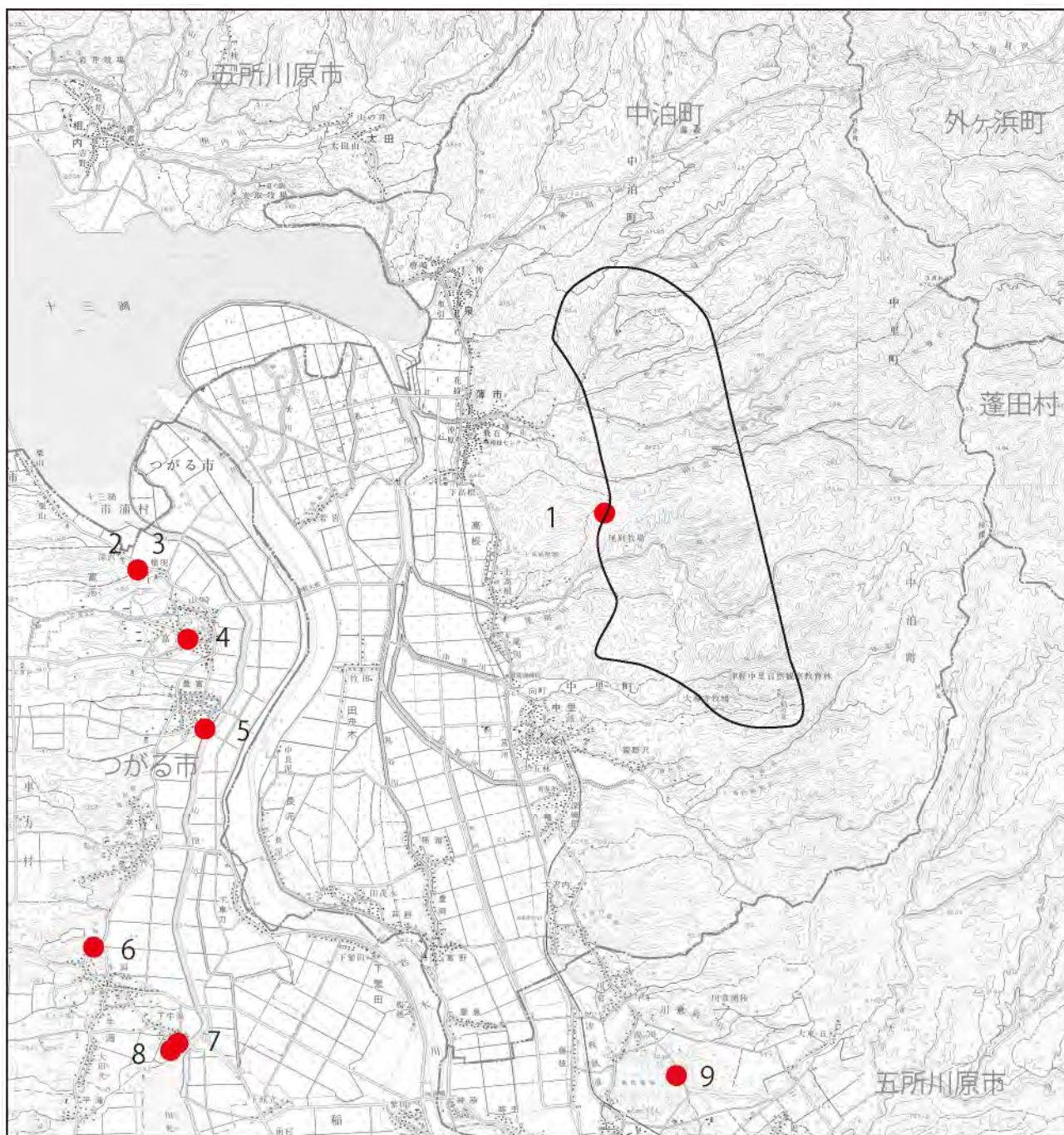
2：車力のクロマツ林

図 3-1-5-2 重要な植物群落



0 2.0 4.0 km
1:100,000

出典：青森県自然環境情報図(環境庁 平成元年)



凡 例

○：事業実施想定区域

●：巨樹・巨木

- | | |
|--------|-------------|
| 1.コナラ | 中里町高根小金石 |
| 2.スギ | 車力村富范権現伊豆神社 |
| 3.ケヤキ | 車力村富范権現伊豆神社 |
| 4.クロマツ | 車力村富范稲荷神社 |
| 5.クロマツ | 車力村豊富屏風山天満宮 |
| 6.イチヨウ | 車力村牛潟潟上八幡宮 |
| 7.クロマツ | 車力村下牛潟宗像神社 |
| 8.クロマツ | 車力村下牛潟観音 |
| 9.アカマツ | 金木町金木芦野 |

出典：第4回自然環境保全基礎調査(環境庁 1991年)

図 3-1-5-3 巨樹・巨木位置



0 2.0 4.0 km
1:100,000

5.3 生態系

5.3.1 自然環境の類型化

事業実施想定区域及びその周辺の自然環境について、自然環境のアセスメント技術(Ⅰ)(環境庁)、青森県環境影響評価技術指針マニュアル(青森県)等に記載される手法に基づき、地形分類(図 3-1-4-1)、現存植生図(図 3-1-5-1)等の状況をオーバーレイして類型化を行い、10 の環境類型区分に分類した。環境類型区分一覧を表 3-1-5-10 に、自然環境類型区分図を図 3-1-5-4 にそれぞれ示す。

事業実施想定区域及びその周辺の地形は、大きく山地、台地・段丘、平地の 3 つに区分できる。山地及び台地・段丘には、ヒノキアスナロ群落やチシマザサ・ブナ群団等の自然植生や、ブナ・ミズナラ群落やカシワ・ミズナラ群落等の二次林、スギ植林やクロマツ植林等の植林が広がっている。台地・段丘に挟まれ南北に広がる平地は、ほぼ全域が水田雑草群落となっている。また、岩木川沿いには水域が広がり、その河原はヨシクラスに占められている。

表 3-1-5-10 環境類型区分一覧

地形	植生・利用状況
平地	農耕地
	ヨシ帯
台地・段丘	農耕地
	植林
	二次林
山地	植林
	二次林
	自然植生
開放水域	
その他	

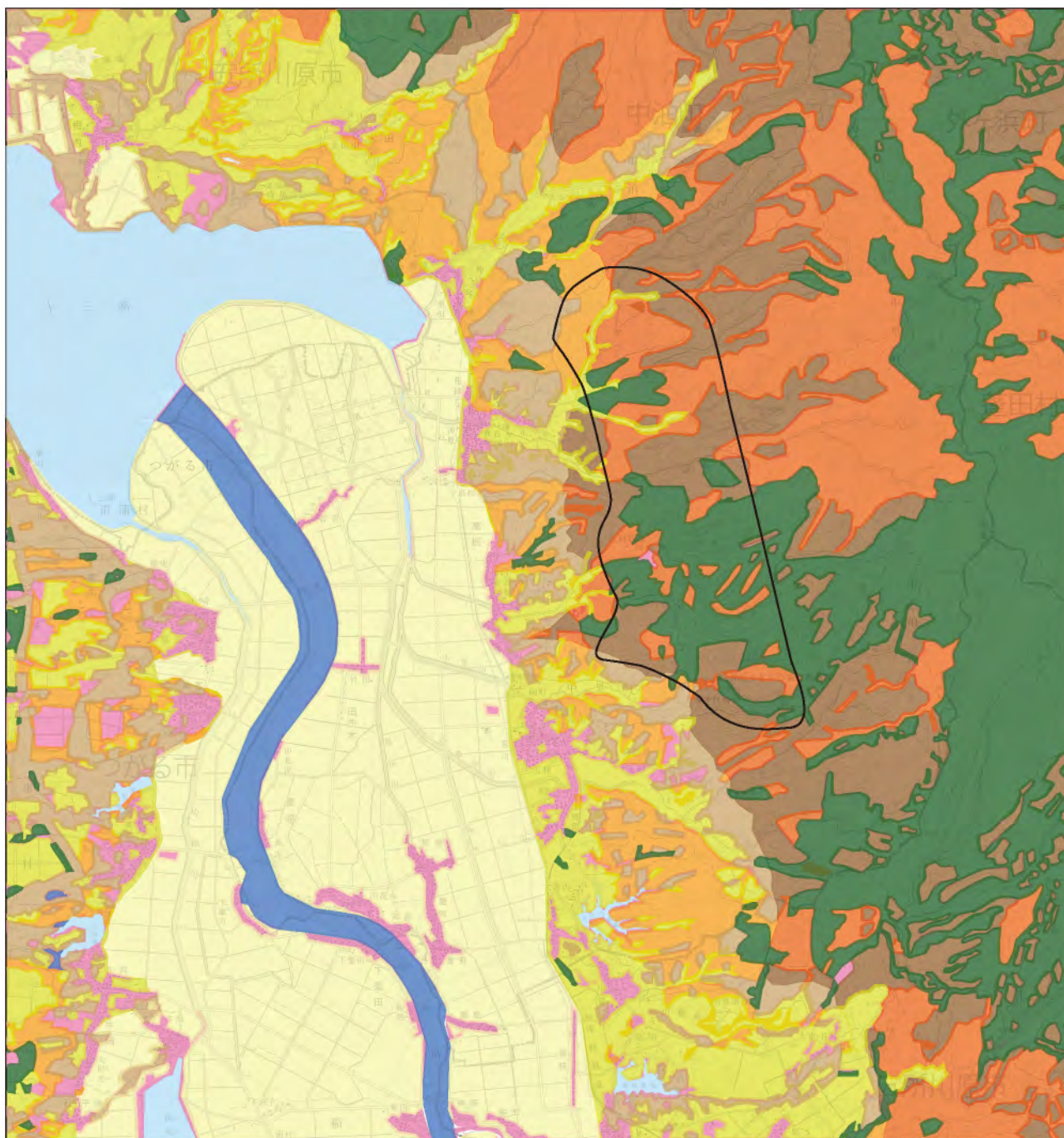


図 3-1-5-4 自然環境類型区分

凡 例

○：事業実施想定区域

□：〈平地〉農耕地

□：〈平地〉ヨシ帯

□：〈台地・段丘〉農耕地

□：〈台地・段丘〉植林

□：〈台地・段丘〉二次林

□：〈山地〉植林

□：〈山地〉二次林

□：〈山地〉自然植生

□：開放水域

□：その他

出典：土地分類基本調査 小泊(青森県 1994 年)、土地分類基本調査 金木(青森県 1993 年)
 土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田(青森県 1992 年)、土地分類基本調査 油川(青森県 1984 年)
 現存植生図 小泊(環境省平成 11 年)、現存植生図 金木(環境省平成 11 年)
 現存植生図 蟹田(環境省平成 11 年)、現存植生図 油川(環境省平成 11 年)



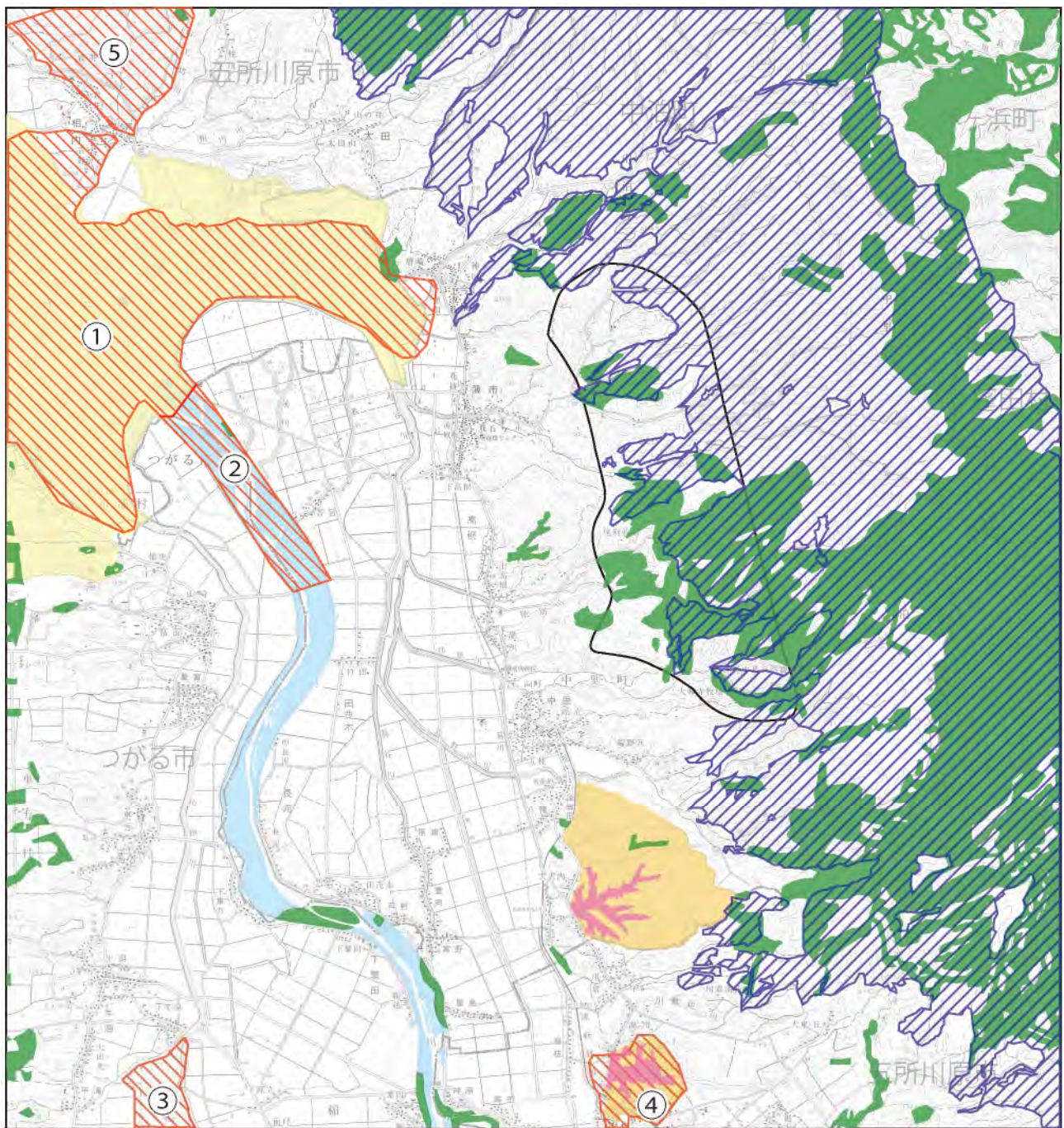
0 2.0 4.0 km
 1:100,000

5.3.2 重要な自然環境のまとまりの場

事業実施想定区域及びその周辺の自然環境について、「計画段階配慮手続に係る技術ガイド(平成 25 年 環境省)」に基づき、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場を表 3-1-5-11 及び図 3-1-5-5 にそれぞれ示す。

表 3-1-5-11 重要な自然環境のまとまりの場

No.	重要な自然環境の まとまりの場	抽 出 理 由
1	ヒノキアスナロ群落等の自然植生	自然林等、人為的な改変をほとんど受けていない自然環境や、一度改変すると回復が困難な脆弱な自然環境である。
2	岩木川河口のヨシ原帯	河川沿いの氾濫原の湿地帯等、減少又は劣化しつつある自然環境である。
3	津軽国定公園	環境保全の観点から自然公園(国定公園)に指定されている。
4	芦野池沼群県立自然公園	環境保全の観点から自然公園(県立自然公園)に指定されている。
5	大沢内ため池及び 藤枝ため池	ため池等、減少又は劣化しつつある自然環境である。また、両ため池は、芦野池沼群県立自然公園の中核をなす地域を特徴づける重要な自然環境でもある。
6	鳥獣保護区	環境保全の観点から鳥獣保護区に指定されている。
7	保安林	水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。



凡 例

図 3-1-5-5 重要な自然環境のまとまりの場

- ：事業実施想定区域
- ：ヒノキアスナロ群落等の自然植生
- ：岩木川河口のヨシ原帯
- ：津軽国定公園
- ：芦野池沼群県立自然公園
- ：大沢内ため池及び藤枝ため池
- ：鳥獣保護区
(①十三湖、②岩木川河口、③田光沼、④芦野、⑤市浦)
- ：保安林

出典：現存植生図 小泊(環境省平成 11 年)、現存植生図 金木(環境省平成 11 年)
 現存植生図 蟹田(環境省平成 11 年)、現存植生図 油川(環境省平成 11 年)
 公園計画図 (青森県 2008 年)
 青森県鳥獣保護区等位置図(青森県平成 24 年)
 森林位置図兼管内図(東北森林管理局平成 19 年)



0 2.0 4.0 km
 1:100,000

6. 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

6.1 景観の状況

「地域別景観特性ガイドプラン」（平成 9 年 3 月 青森県）によれば、事業実施想定区域及び周辺地域は、「津軽平野北部景域」に含まれ、その概要は、「東側を低い山並みの連なる津軽山地、西側を直線的な七里長浜海岸に沿った屏風山砂丘に挟まれ、岩木川を軸に広大な水田景観が形成されている。また、岩木川河口部には十三湖のおだやかな景観が広がる」と表現されている。津軽平野北部景域の景観特性を表 3-1-6-1 に示す。

事業実施想定区域及び周辺地域はⅠ及びⅡの区域に該当する地域に位置し、Ⅲ、Ⅳの区域と隣接あるいは対面する区域に位置している。

津軽平野北部景域の主な眺望点と自然景観資源一覧を表 3-1-6-2 に、位置を図 3-1-6-1 にそれぞれ示す。

表 3-1-6-1 津軽平野北部景域の景観特性

区域	景 観 特 性
Ⅰ	・景域の中央に広がる広大な津軽平野には、大規模集約的な水田が展開し、極めて平坦な水平基調の強い田園景観が形成されている。また、平坦な景観に突出する岩木山はランドマークとして平野の全域から視認される。 ・岩木川をはじめとする平野を南北に貫流する河川、用水路は、面的な広がりを持つ眺望に明確な方向感を与える軸となるほか、堤防上や橋梁上等の微高地は、立体感に乏しい景観に変化を与えるとともに、それ自身周囲を見渡す眺望点となる。 ・平野に点在する帯状の自然堤防上を中心とした道路沿いには、防風林が形成された列状の農村集落が断続し、単調な水田の景観に変化を与えるとともに、眺望上の目標となる。 ・なお、集落を構成する家屋は伝統的な構造、意匠を持つものが多く残存する。
Ⅱ	・平野の東側には、ゆるやかに起伏する津軽山地が低く連なり、平野からの仰角の浅いスカイライン、あるいは緑の背景として遠望される。
Ⅲ	・平野の北端にあたる岩木川の河口には、おだやかな十三湖が広がり、周囲の砂丘や平野、低く連なる山地が、低く水平基調の緑の背景をなしている。
Ⅳ	・平野の西側には、日本海に面した直線的な七里長浜海岸を伴う広大な屏風山砂丘が連なる。砂丘の大部分は発達した防風林に被われ、ゆるやかに起伏する水平に近いスカイラインを形成するとともに、内陸部の一部は、平野からの視覚的境界となっている。 ・一部には、自然性の高い植生を有する湿原等の砂丘地特有の優れた自然景観が形成されている。

出典：「地域別景観特性ガイドプラン」（平成 9 年 3 月 青森県）

表 3-1-6-2 事業実施想定区域周辺の主な眺望点、自然景観資源一覧

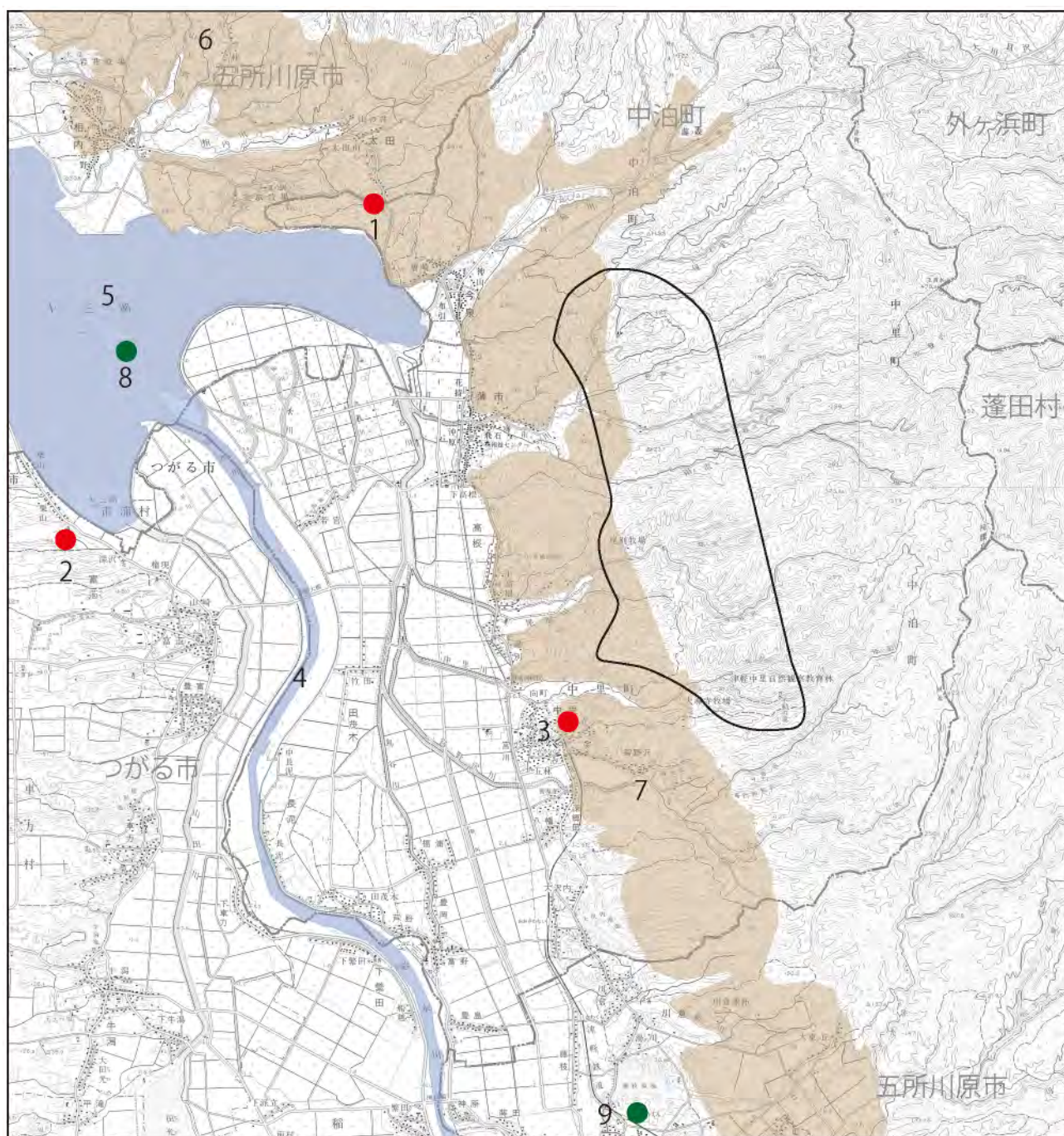
No.	区分	資源名	概 要
1	眺望点	七平展望台	中里の田園地帯及び十三湖、岩木山、日本海を一望。
2		栗山展望台 (呑龍岳展望台)	日本海や十三湖、屏風山、岩木山、権現崎まで一望できる。
3		中里城跡史跡 公園展望台	田園風景や市街地を見下ろせると共に、岩木山や屏風山、権現崎などを遠望できる。青森県景観条例第21条に基づく「ふるさと眺望点」に指定されている。
4	自然景観資源	岩木川	津軽平野を南北に貫流している一級河川で、十三湖との合流部付近にはヨシ帯が広がっている。
5		十三湖	岩木川の河口部に広がる津軽最大の湖。シジミで全国的に有名。
6		相内段丘	過去の海面に対応して形成された階段状の台地(段丘)地形。かつては海面近くにあり、波浪の侵食作用により形成されたもの。
7		金木段丘	
8		十三湖の白鳥	オオハクチョウの渡来地として知られ、「十三湖の白鳥」として県の天然記念物指定を受けている。
9		芦野公園の桜	津軽半島随一の桜の名所で「日本の桜名所百選」にも選定されている。

注)景観資源は、自然景観資源のみ抜粋。

出典：「地域別景観特性ガイドプラン」(平成9年3月 青森県)

青森県ホームページ「ふるさと眺望点(西北五地区)」

第3回自然環境保全基礎調査 青森県自然環境情報図(平成元年 環境庁)



凡 例

図 3-1-6-1 事業実施想定区域周辺の主な眺望点及び自然景観資源

○：事業実施想定区域

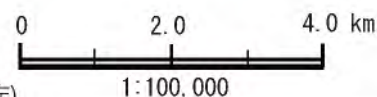
眺望地点

- 1.七平展望台
- 2.栗山展望台(呑龍岳展望台)
- 3.中里城跡史跡公園展望台

自然景観資源

- 4.岩木川
- 5.十三湖
- 6.相内段丘
- 7.金木段丘
- 8.十三湖の白鳥
- 9.芦野公園の桜

出典：地域別景観特性ガイドプラン(平成9年 青森県)
 青森県ホームページ「ふるさと眺望点(西北五地区)」
 第3回自然環境保全基礎調査 青森県自然環境情報図(平成元年 環境庁)



6.2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施想定区域及びその周辺における「人と自然との触れ合いの活動の場」としては、津軽国定公園や芦野池沼群県立自然公園、中泊町森林公園などがある。これらの「人と自然との触れ合いの活動の場」の概要を表 3-1-6-3 に、位置を図 3-1-6-2 にそれぞれ示す。

表 3-1-6-3 主要な人と自然との触れ合いの活動の場一覧

No.	名称	概 要
1	津軽国定公園	東津軽郡外ヶ浜町から西津軽郡深浦町に至る延長約180kmの海岸部と山岳部、湖沼群等から成る。竜飛岬などの海岸侵食景観や、十三湖や屏風山地区の砂丘景観、世界自然遺産に指定されている白神山地、大小33の湖沼群から成る十二湖などが含まれる。
2	芦野池沼群 県立自然公園	中泊町の大沢内溜池と五所川原市の藤枝溜池(芦野湖)の2つの人工の溜池とその周辺から成る。芦野湖は桜の名所としても有名である。
3	中泊町森林公園	4kmの遊歩道その他、ふれあいセンター、コテージなどの休憩・宿泊施設がある。隣接している運動公園には、野球場やテニスコートなども整備されている。
4	津軽中里自然観察 教育林(歩道)	自然観察教育林(当該地域の自然を特色づけ、変化に富み、小中学校の自然科学教育に適した地域や特異な自然で自然探勝などで接することにより、国民の自然科学的興味を助長させることに適した地域)として指定されている。
5	砂防愛ランド	小規模のキャンプ施設その他、川沿いには遊歩道が整備されている。
6	不動の滝	国有林内にあり、清らかな瀑布は四季折々の美しいたたずまいをみせる。
7	太宰治と名水と 池沼群をめぐるみち	津軽半島の桜の名所である芦野湖や、恐山と共にイタコで知られる川倉賽の河原、緑の中の金木町運動公園、牧草茂る丘陵、広大な田園風景などといった変化に富んだ散策を楽しめるみち。
8	高山稲荷と七里長浜 のみち	五穀豊穡・商売繁盛・海上安全の神を奉る高山稲荷神社と、太公望で賑わう七里長浜を通るみち。

出典：奥津軽の旅案内ホームページ、津軽ナビホームページ、全国地域観光情報センターホームページ

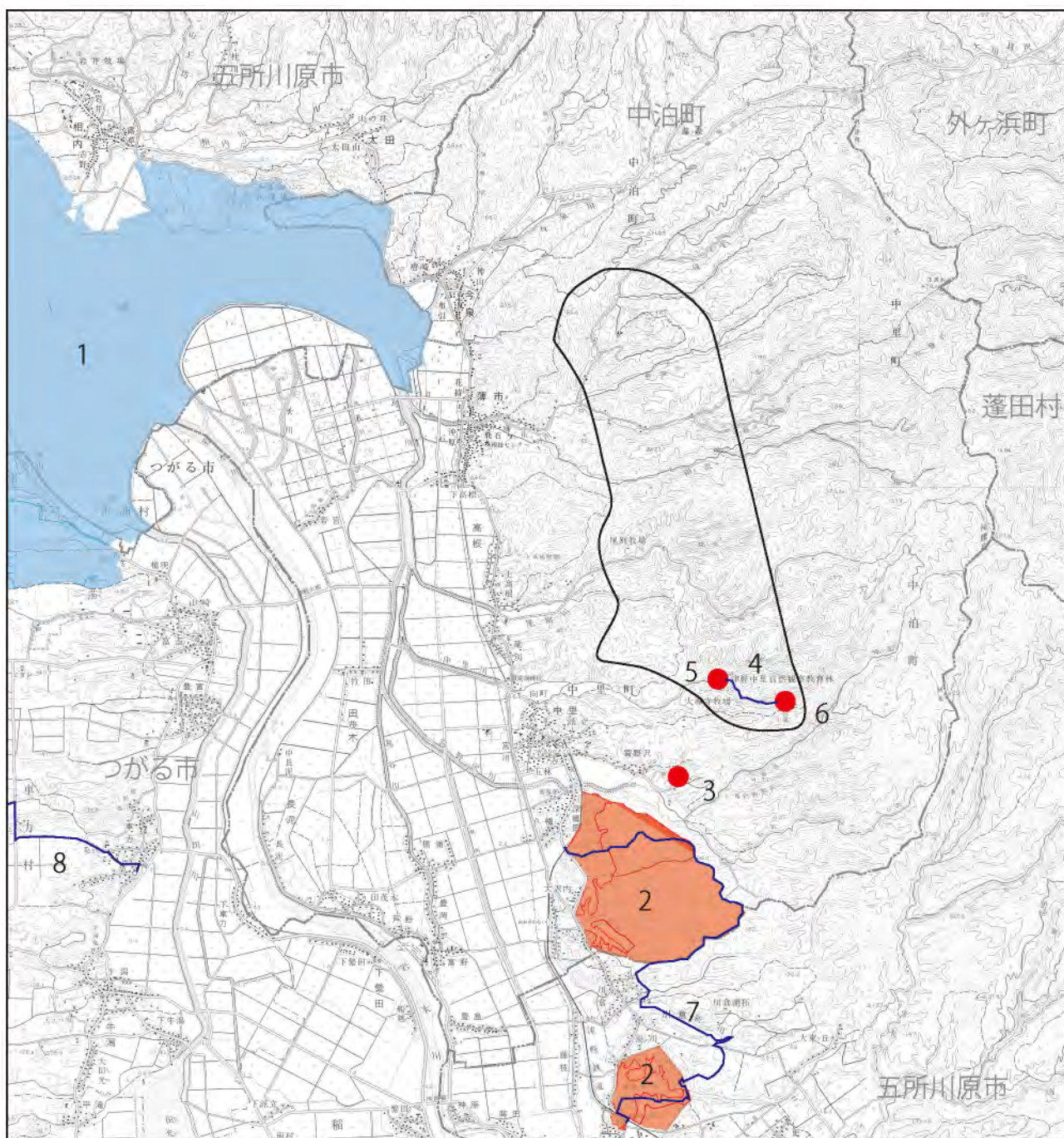


図 3-1-6-2 事業実施想定区域周辺の

主要な人と自然との触れ合いの活動の場

凡 例

○：事業実施想定区域

人と自然との触れ合いの活動の場

1. 津軽国定公園

2. 芦野池沼群県立自然公園

● 3. 中泊町森林公園

— 4. 津軽中里自然観察教育林(歩道)

● 5. 砂防愛ランド

● 6. 不動の滝

— 7. 太宰治と名水と池沼群をめぐるみち

— 8. 高山稲荷と七里長浜のみち

出典：奥津軽の旅案内ホームページ

津軽なびホームページ

全国地域観光情報センターホームページ



0 2.0 4.0 km
1:100,000